

文部科学省委託事業

令和3年度

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

報告集



青森県道徳教育推進協議会

発 刊 に よ せ て

青森県道徳教育推進協議会

会 長 渡 邊 諭

中央教育審議会答申、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」には、「2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型教育』の姿」として、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」と述べられています。これは、道徳科の目標と軌を同じくするものであり、予測できない近未来社会の担い手を育成していく上で、学校現場においては、道徳教育が重要性を増してきていることを示すものといえるでしょう。

このような中、今年度、五所川原市立南小学校及び五所川原市立五所川原第一中学校において、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業の委託を受け、研究が行われました。

五所川原市立南小学校では、「自ら考え、心豊かに学び合う児童の育成～『対話』を通して、考えを深める道徳科の授業の工夫～」を研究主題とし、低・中・高の児童の発達の段階に合わせて、道徳的価値を自分の課題として捉えさせるための導入の工夫はもちろん、多面的・多角的な視点をもたせた振り返りを取り入れるなどの授業実践に取り組んできました。道徳教育推進教師を中心とした組織的な取組は、児童の明らかな変容につながり、学校ぐるみの充実した研究の成果について深く考えさせるものがありました。

五所川原市立五所川原第一中学校では、「豊かな心を持ち、人とのかかわりを大切にする生徒の育成～一人一人が自分自身の問題として捉え、多様な考えを認め合う道徳教育の実践を通して～」を研究主題に、全体計画に道徳教育に係る重点項目を設け、改善を加える中、自校の教育課題の解決に向けて取り組んできました。とりわけ、道徳科の授業では、発問と意見の共有化、主体的に考えを深めることを研究の主眼とすることによって、授業の改善が生徒に及ぼす影響について、改めて考えさせるものとなっています。

さらに両校の特色としては、小中連携を生かし、「道徳性調査」と「道徳科アンケート」を実施し、相互に研究授業を参観し、授業づくりを通して研究を進めてきたことがあげられます。これは、組織的な実践研究の一つの指針となるべきものといえます。

各学校におかれましては、両校のすばらしい実践を参考にしつつ、自校の道徳教育の取組の見直しを図っていただき、活用できる取組については、各学校の実態に即した形で生かしていくことで、今後「道徳科」が、道徳教育の真の要としての役割を果たせるよう、真摯な取組を進めていただければ幸いに存じます。

最後に、本事業推進に当たり御支援、御尽力いただきました五所川原市立南小学校、五所川原市立五所川原第一中学校、五所川原市教育委員会をはじめ、関係の皆様にお礼を申し上げますとともに、本報告集が道徳教育の指針の一つとして活用されることを祈念いたします。

挨拶

青森県教育庁

学校教育課長 高橋 英樹

道徳教育については、「特別の教科 道徳」が全面実施となってから、小学校では4年目、中学校では3年目となります。道徳の教科化に当たっては、「考え、議論する」道徳教育への質的転換を図り、児童生徒の道徳性をより一層育むこと、全教育活動を通して行われる道徳教育の要となること等がねらいです。また、高等学校においては、来年度から年次進行で実施となる新学習指導要領において、道徳教育推進教師を設置すること、公民の「公共」「倫理」及び特別活動が、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面であることが明記されており、学校教育における道徳教育の充実がより一層重要となっております。

このため、県教育委員会では、子どもたちが社会の中で自立した人間として成長できるよう、道徳教育の充実を学校教育指導の方針と重点の一つに掲げ、地区道徳教育研究協議会や県総合学校教育センターでの研修など、道徳教育推進のための様々な施策を展開するとともに、文部科学省委託事業「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の中で、道徳教育推進協議会の開催、研究指定校による特色ある道徳教育の実践、道徳教育パワーアップ協議会の開催等に取り組んで参りました。

今年度は、五所川原市教育委員会の御指導の下、五所川原市立南小学校、五所川原市立五所川原第一中学校が研究指定校として研究実践に当たってくださいました。両校とも、道徳教育を推進する指導体制の整備・充実、道徳科における多様で効果的な指導方法の改善・充実、家庭・地域との連携による道徳教育の取組など、新学習指導要領の趣旨に沿った道徳教育の充実に向けた実践を通じた研究が行われました。

両校の実践は、道徳教育パワーアップ協議会において全県から集まった参加者に対して発表され、今年度の研究の成果を広く周知することができました。グループ協議では、意見交換が活発になされるなど、参加者の興味・関心の高さがうかがわれるとともに、自校の道徳教育の取組への参考になったことと思います。

本報告集は、両校の取組の成果等をまとめたものですが、県内全ての学校において、児童生徒の豊かな心の育成のため積極的に活用し、教育活動全体を通して自校の道徳教育の充実に役立てていただきたいと思います。

最後に、本報告集の作成に当たり、日々の教育実践を積み重ね、大きな研究成果を挙げられた五所川原市立南小学校、五所川原市立五所川原第一中学校、御指導いただいた五所川原市教育委員会、県道徳教育推進協議会会長である青森市立三内中学校渡邊校長及び副会長である青森市立沖館小学校田中校長をはじめとする協議会委員の皆様へ感謝申し上げます、御挨拶といたします。

も く じ

○発刊によせて

青森県道徳教育推進協議会 会長 渡 邊 諭

○あいさつ

青森県教育庁 学校教育課長 高 橋 英 樹

○五所川原市立南小学校

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業完了報告書

1 道徳教育に関する改善状況の概要	1
2 実施した研究内容	2
3 実施経過とその体制	4
4 取組の成果と課題	6

道徳教育全体計画	1 5
----------	-----

学習指導案

第1学年1組	1 6
第4学年1組	1 9
第6学年1組	2 2

○五所川原市立五所川原第一中学校

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業完了報告書

1 道徳教育に関する改善状況の概要	2 9
2 実施した研究内容	3 0
3 実施経過とその体制	3 3
4 取組の成果と課題	3 5

学習指導案

第1学年2組	4 0
第2学年3組	4 3
第3学年1組	4 6

資料

1 道徳の授業における発問について	4 9
2 道徳教育全体計画	5 1
3 道徳教育全体計画 別葉 (中学校1年生)	5 2
4 道徳教育全体計画 別葉 (中学校2年生)	5 3
5 道徳教育全体計画 別葉 (中学校3年生)	5 4

五所川原市立南小学校



道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業 完了報告書

(五所川原市立南小学校)

1 道徳教育に関する改善状況の概要

本校の令和2年度の道徳教育の重点目標は「基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成」「自立心や自律心、自他の生命を尊重する心の育成」「自己の生き方についての考えを深める」「情報モラルの育成」の4点であった。令和3年度は、児童の実態や保護者の願い、また社会の情勢に鑑み「思いやりをもって接することができる子を育てる」「自分の目標に向かって、希望と勇気をもって努力する子を育てる」の2点とし、より焦点化した道徳教育を推進することとした。また、校内研究においては、今年度から主題を「自ら考え、心豊かに学び合う児童の育成～対話を通して、考えを深める道徳科の授業～」とし道徳教育を中心とした研修を進めてきた。

具体的には以下のことに重点を置き、道徳教育の抜本的改善・充実に図った。

(1) 抜本的改善・充実のための3つの重点

- ① 道徳科における学習活動の工夫により、一人一人が自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる「考え・議論する道徳科」の実現を目指す。
- ② 本校の道徳教育の重点目標との関連を明確にした指導計画の見直しとその活用を進め、教育活動全体としての道徳教育の強化を図る。
- ③ 校内掲示物、道徳に関する通信等を用いた家庭との連携など、道徳教育に関する環境を整え、多方面から児童の道徳性の育成を図る。

(2) 重点に関する取組による改善

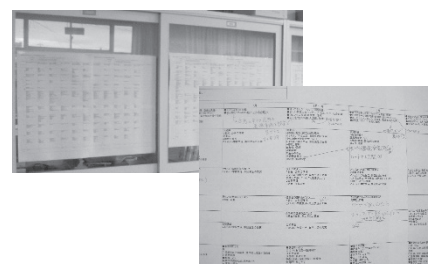
- ① 自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる「対話」を取り入れた学習活動の展開を研究内容にしたことにより、指導者が「発問」を十分吟味するきっかけとなった。これによって、より子供の姿を基にしたより深い教材研究がなされるようになり、意図的な「対話」の場面の設定や、子供の思考を活性化させる教師のファシリテートにつながった。また、自己を見つめ、多面的・多角的に考えさせるために、ペアやグループなどの対話場面だけではなく、ワークシート、心情円盤の活用など多様なアプローチが有効であることも明らかになった。
- ② 道徳科の授業における児童の成長を見取る方法の工夫に取り組んだことにより、めざす子供の姿をより明確にした授業づくりの検討、子供の姿を根拠にした提案授業後の協議会を進めることができた。
- ③ 全ての学年の年間指導計画別葉を職員室内に掲示し、加筆修正をしながら活用することで、より重点目標を意識した全教育活動での道徳教育を進めることができた。また、重点目標を意識した指導を心がけた道徳科の授業の様子を学校便りや学級通信により家庭へ周知し、道徳教育に関する取組を地域や家庭へ発信することができた。



心情円盤を使った授業



子供の姿を根拠にした研究協議



年間計画別葉の掲示と活用

2 実施した研究内容

(1) 地域の実態や課題に応じた特色ある道徳教育の取組の概要

① 道徳教育全体計画・別葉の改善と活用

令和3年度は、本校の課題に沿った道徳教育を展開し、全職員が重点目標を意識しながら教育活動を展開していくために、次のことに取り組んだ。

ア 実態に沿った重点目標の設定

イ 別葉の掲示と加筆修正、全教育活動における道徳教育の推進

② 特別活動における道徳教育の推進

特別活動における集団活動は、日常生活における道徳的な実践を行う重要な機会と場であるとする。そこで、10月を「南小ハートフル月間」とし、各学級、各委員会、なかよし班（縦割り班）において、優しさがあふれる学校にしていく取組をした。

ア 各学級・・・気持ちよく学校生活を送るための呼びかけ（掲示物）

「ふわふわの木」に、嬉しかった言葉（ふわふわ言葉）を貼る

イ 各委員会・・・心がポカポカ温まる活動に挑戦

ウ なかよし班・・・嬉しかったことをカードに書いて伝える



各学級作成の掲示物



ふわふわの木



各委員会での取組



嬉しかったことの掲示
(なかよし班)

③ 校内における課題等の共有

6月から提案授業が実施されたが、初めの段階では職員間で道徳科の授業改善の視点などが明確になっていないと思われたため、道徳通信を発行して課題等を共有し、共通理解を図った。

④ 中学校との連携

本研究は、本校児童の進学先である五所川原第一中学校と連携しながら行った。小・中学校共に、道徳科の授業改善や年間指導計画の改善と活用を重点に挙げ、次のことについて連携して研究を進めた。

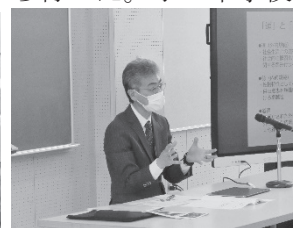
ア 相互の授業公開

イ 講演講師を招いての研修会（2回）

ウ 児童（生徒）道徳アンケートの実施



研究協議と講演会（7月）



講演会（1月）

⑤ 地域・保護者への情報発信

アンケートの結果から、道徳に関して児童が家庭で保護者に話題にすることがほとんどないという実態が明らかになったため、次のことに取り組んだ。

ア 参観日における道徳科の授業の実施（全学級）

イ 学校便りや学級通信に道徳教育に関する内容を掲載し情報を発信

ウ 教室内に道徳コーナーを設置

(2) 道徳科の授業研究

研究目標

道徳科において、自ら考え、心豊かに学び合う児童を育てるために、自己を見つめ、思いを語り合う「対話」を取り入れた学習活動を工夫することが有効であることを、実践を通して明らかにする。

①提案授業の実施

今年度、本校では県教育委員会の指定を受け、11月に小学校道徳教育研究協議会を開催し、第1学年、第4学年、第6学年の道徳科の授業を公開することになった。そのために、公開授業に向け、全ての学年で提案授業を実施することとした。

【第1学年 「かぼちゃのつる」A-(3) 節度、節制】

登場人物の心情の変化を視覚的に捉えることができるよう、表情マーク（様々な表情をした顔のカード）を使い、児童がより自分事として考えることができるようにした。ここでは、表情マークの一定の効果は見られた。しかし、より深くつるを伸ばすこと自体はよいことであるにもかかわらず、それが認識されていないのではないかということが出された。

【第2学年 「がんばれ ポポ」A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志】

道徳的価値の理解を深めるために、動作化の活動を取り入れた。ここでは、行為の先にある心情が分かるように教師が問返しをし、「心情の見える化」をする必要があるのではないかということが出された。



【第3学年 「あと、ひと言」 A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任】

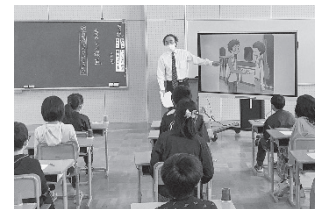
多面的・多角的に考えるために、自分の考えをワークシートに書いた上で、グループで話し合う活動を取り入れた。グループでの話し合いでは、深まりを見取れなかった児童も、全体での話し合い後の振り返りでは深まりが見られた。ここでは、思考を深めるための発問に課題が見られた。

【第4学年 「泣いた赤おに」 B-(9) 友情、信頼】

多面的・多角的に考えるために、立場を決めて話し合う場を設定した。教師は、児童の発言をより明確にさせるための問返しをしていたが、さらに、価値へと迫るための問返しとそのタイミングが重要ではないかということが出された。

【第5学年 「友のしょう像画」 B-(10) 友情、信頼】

自分の考えをより明確にしたり、深めたりするために、自分の立場を決めた上で話し合う場を設定した。立場を明確にして話すことで、自分の考えとの違いがより明確になり、話し合いが活発に行われた。ただ、もっと考えを引き出すためには、児童が話し合う必要性を感じるための手立てが必要ではないかということが出された。



【第6学年 「ひとみと厚」 B-(10) 友情、信頼】

自分自身に置き換えて考えることができるように、心情メーターを用いて登場人物の心情を考えさせた。心情メーターによって児童が自分を見つめたり、考えを整理したりする姿が見られた。さらにそこから論点を見つけ、議論を深める手立ての在り方について意見が出された。



【第6学年 「移動教室の夜」 A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任】

多面的・多角的に考えたり、自分の考えを明確にしたりすることができるよう、「自由に話したい」「早く寝た方がよい」という2つの立場について、自分の立場を決めて話し合わせた。ここでは、相手の考えを理解し尊重した上で、自分の考えを話す児童の姿が見られ、対話による深まりが成果として挙げられたが、さらに価値に迫るための教師の問返しについての課題が明らかになった。

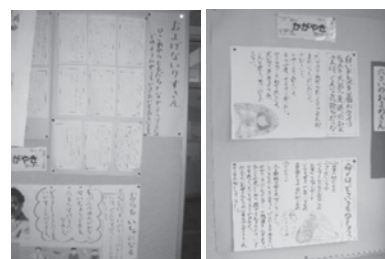
②評価シートの作成と活用

以下の視点で評価するためのシートを作成し、道徳性に関する児童の成長の見取りに活用した。

視 点	見取りのポイント	キーワード
一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか	・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠を様々な視点から捉えている。	・理由は～ ・気持ちは～
	・自分と違う立場で感じ方、考え方を理解しようとしている。	・〇〇さんの話を聞いて～ ・～と考えていたけど～
	・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において、取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。	・迷ってしまうけど～ ・どちらの考えも～
道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか	・登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。	・自分だったら～
	・現在の自分を振り返り、自らの行動や考えを見直している。	・今までは～ ・これからは～
	・道徳的な問題に対して、自己の取り得る行動を他者と議論する中で道徳的価値の理解をさらに深めている。	・～が大切だと思う ・〇〇さんの話を聞いて～
	・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。	・～は難しいけど～ ・なかなかできない
役割演技等の表現活動	・テーマについて自分の考えを演じている。	
	・友達の演技を見てさらに理解を深めている。	
表情・態度	・うなずきながら話を聞いている。	
	・考え、悩んでいる表情が見られる。	
思いを表出させる活動	・心情円盤等で意思表示をしている。変化している。	

③道徳に関する環境の整備

道徳の時間に、どのようなことを、どのように学んだのか分かるよう、「かがやきコーナー」を各教室に設定し、学習の足跡を児童が感じられるようにした。



各学級の道徳コーナー

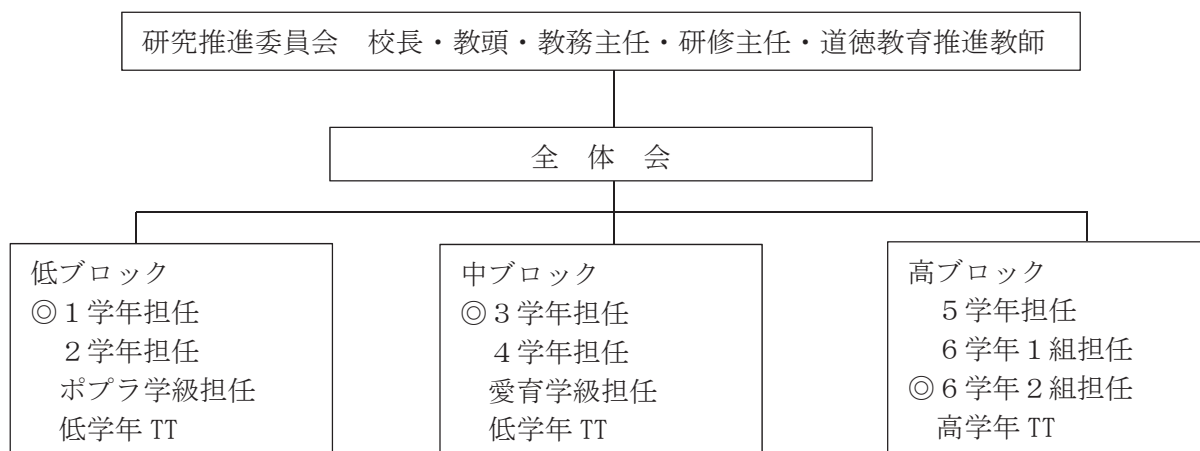
3 実施経過とその体制

(1) 実施経過

月	取 組 の 内 容	備 考
6	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施計画書の確認及び提出 ・全体計画，年間指導計画，別葉の見直し ・児童アンケートの実施・分析 ・道徳教育に関わる学習会① ・提案授業①・研究協議 6年 教材名「ひとみと厚」 授業者：山田智子 ・提案授業②③・研究協議 2年 教材名「がんばれポポ」授業者：中谷真弓 3年 教材名「あと、ひと言」授業者：碓谷一恵 ・道徳に関わる学習会② 「対話」「発問から考える子供の姿」 	講師 五所川原市教育委員会 指導主事 西口虎男 氏 指導助言 西北教育事務所 指導主事 尾崎徳哉 氏 指導助言 五所川原市教育委員会 指導主事 西口虎男 氏

7	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回県道徳教育推進協議会への参加（研修主任・教頭） ・提案授業④⑤⑥ 研究協議 道徳に関する学習会③ <ul style="list-style-type: none"> 1年 教材名「かぼちゃのつる」 授業者：三浦仁美 4年 教材名「泣いた赤おに」 授業者：古川尚子 6年 教材名「移動教室の夜」 授業者：板谷真貴子 講演 「道徳を教えるとは？」 ・道徳参観日（保護者参観） 	指導助言 五所川原市教育委員会 指導主事 西口虎男 氏 指導助言・講演 弘前大学 教育学部長 福島裕敏 氏
8 . 9	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中道徳教育推進協議会①への参加（道徳教育推進教師） ・公開授業指導案検討会① ・公開授業指導案検討会② 	指導助言 西北教育事務所 指導主事 尾崎徳哉 氏 指導助言 五所川原市教育委員会 指導主事 西口虎男 氏
10	<ul style="list-style-type: none"> ・提案授業⑦ ※市教委計画訪問 5年 教材名「友のしょう像画」 授業者：加藤元彦 	指導助言 五所川原市教育委員会 指導主事 西口虎男 氏
11	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校道徳研究協議会②公開授業【中止のため校内研として実施】 6年 教材名「おばあちゃんの指定席」 授業者：板谷真貴子 4年 教材名「へこたれない きせきのりんご」 授業者：古川尚子 1年 教材名「はしの上のおおかみ」 授業者：三浦仁美 ・道徳研究協議アンケートの集計・分析 	指導助言 西北教育事務所 指導主事 尾崎徳哉 氏 指導助言 五所川原市教育委員会 主任指導主事 佐々木 謙一 氏 指導主事 西口虎男 氏
12	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの実施・分析 ・児童アンケートの実施・分析 	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳に関する学習会④ 講演 ・第2回青森県道徳教育推進協議会への参加（教頭 研修主任） ・県道徳教育パワーアップ協議会にて実践事例発表 	講師 弘前大学 教育学部長 福島裕敏 氏
2	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要の作成 ・次年度研究に向けての検討 	

(2) 研究体制

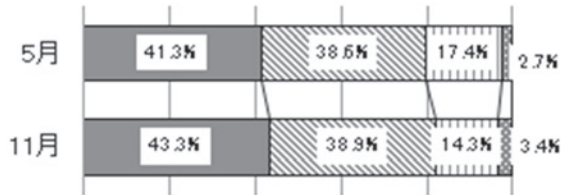


4 取組の成果と課題

(1) 「道徳意識調査」の比較(5月と11月に実施 調査対象：全校児童)

■ そう思う(よくある) ▨ だいたいそう思う(ある) □ あまりそう思わない(あまりない) ■ そう思わない(ない)

①自分にはよいところがある。



②将来の夢や目標をもっている。



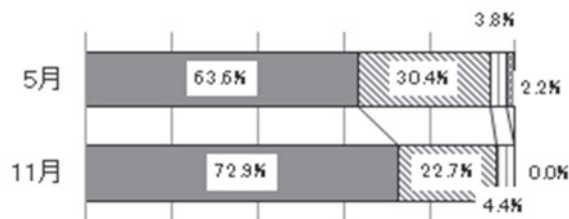
③ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。



④難しいことでも失敗をおそれずに、挑戦している。



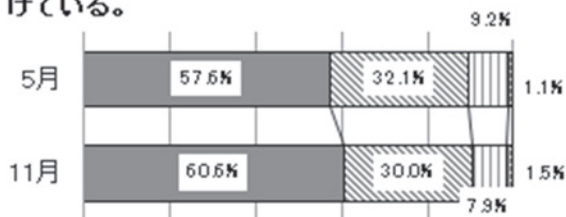
⑤友だちと協力して取り組んでいる。



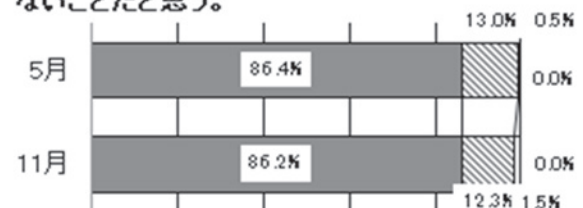
⑥学校のきまりを守っている。



⑦困っている人がいるとき、進んで助けている。



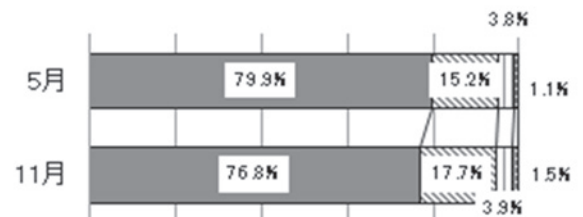
⑧いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。



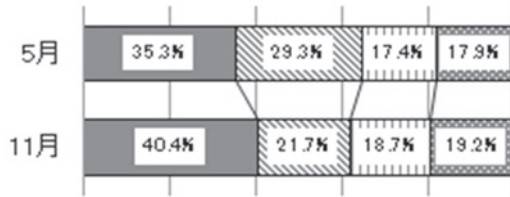
⑨相手の気持ちを考えて生活している。



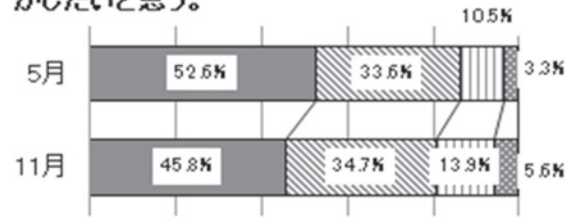
⑩人のために役に立ちたいと思う。



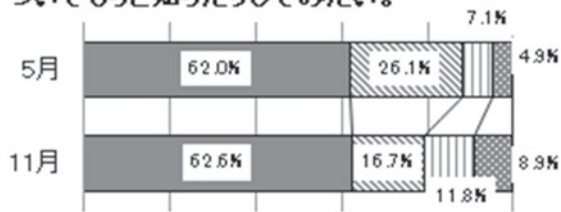
⑩地域の行事に参加している。



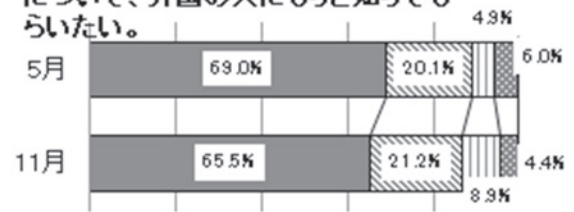
⑪自分の住んでいる地域のために何かしたいと思う。



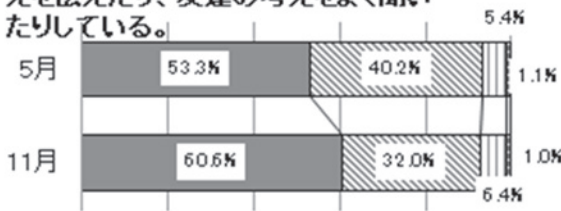
⑫外国の人と友達になったり、外国についてもっと知ったりしてみたい。



⑬日本や自分の住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい。



⑭授業中は、友達に進んで自分の考えを伝えたり、友達の考えをよく聞いたりしている。



○ 次の質問項目で「そう思う」「だいたいそう思う」と回答（以下：肯定的に回答）した割合に、増加傾向がうかがえる。

- ①自分にはよいところがある。
- ③ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。
- ⑤友達と協力して取り組んでいる。
- ⑥学校のきまりを守っている。
- ⑦困っている人がいるとき進んで助けている。
- ⑨相手の気持ちを考えて生活している。

※⑨に関しては、11月は肯定的に回答した中でも「そう思う」が12.8ポイント増えていて、相手の気持ちを考えながら生活している児童が大きく増加している。

○ 次の質問項目で肯定的に回答した割合は、若干の減少傾向がうかがえる。

- ②将来の夢や目標をもっている。
- ⑪地域の行事に参加している。
- ⑫自分の地域のために何かしたいと思う。
- ⑬外国の人と友達になったり、外国についてもっと知ったりしてみたい。
- ⑭日本や自分の住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい。

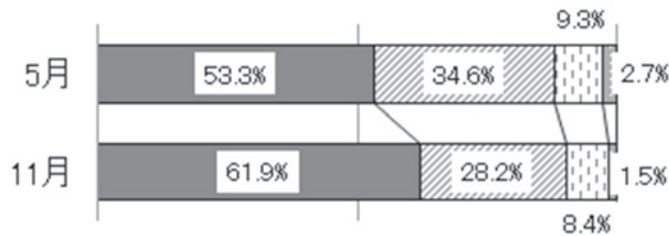
○ 次の質問項目で肯定的に回答した割合は、大きな変化は見られない。

- ④難しいことでも失敗をおそれずに、挑戦している。
- ⑧いじめはどんな理由であっても、いけないことだと思う。
- ⑩人のために役に立ちたいと思う。

(2)道徳科アンケートの比較（5月と11月に実施 調査対象：全校児童）

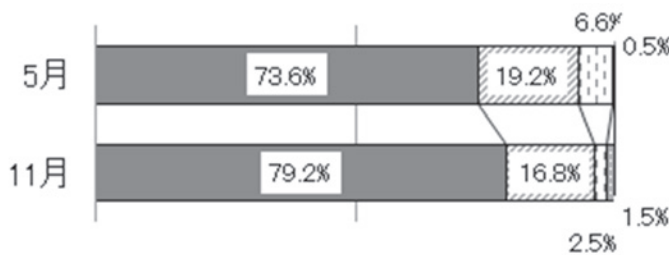
■ そう思う(よくある) ▨ だいたいそう思う(ある) □ あまりそう思わない(あまりない) ■ そう思わない(ない)

① 道徳の時間が楽しい。



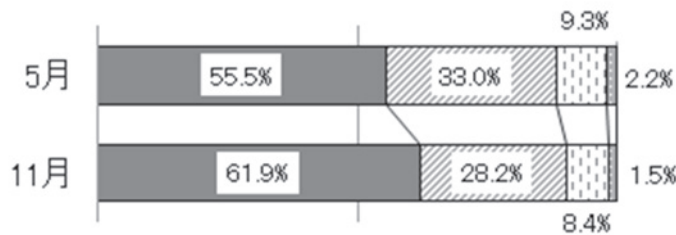
「そう思う」「だいたいそう思う」と回答（以下：肯定的に回答）した割合がどちらの月も85%以上で高い傾向がみられる。
11月には「そう思う」とより強い肯定感を示す割合が、8.6ポイント増えており、楽しんで学習に取り組んでいる児童が増加している。

② 道徳の学習は、役に立つと思う。



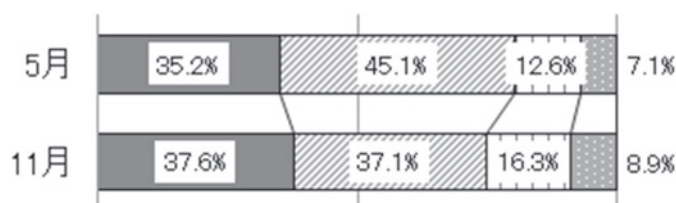
肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も90%以上で高い傾向がみられる。
11月には「そう思う」とより強い肯定感を示す割合が、5.6ポイント増えており、道徳科の学習について「役に立つ」と有用性を感じている児童が増加している。

③ 道徳の授業で、自分のことについて考えている。



肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も85%以上で高い傾向がみられる。
11月には「そう思う」とより強い肯定感を示す割合が、6.4ポイント増えており、道徳科の時間に「自分のことについて考えている」と感じる児童が増加している。

④ 道徳の授業で、自分の考えを友達に聞いてもらうのが好きだ。



肯定的に回答した割合が、5月は80.3%で、11月も74.7%以上であった。どちらの月も、他の質問項目ほど高い傾向になっていない。
11月には「そう思う」とより強い肯定感を示す割合が、僅かに増えているが、肯定的な回答をする児童の割合は、5.6ポイント減少する結果となっている。

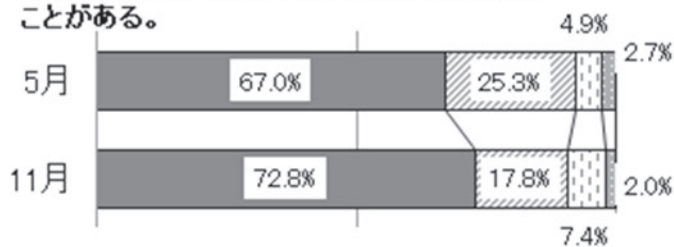
⑤ 道徳の授業で、友達の考えを最後まで聞いている。



肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も90%以上で高い傾向がみられる。

11月には「そう思う」とより強い肯定感を示す割合が、5.1ポイント増えており、「友達の考えを最後まで聞いている」児童が増加している。

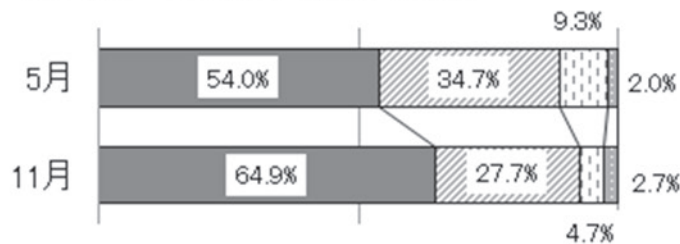
⑥ 道徳の授業で、友達の話を聞いて『なるほど』と思ったり、自分の考えが変わったりしたことがある。



肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も90%以上で高い傾向がみられる。

11月には「そう思う」とより強い肯定感を示す割合が、5.8ポイント増えているが、肯定的に回答している児童は、僅かに減少している。

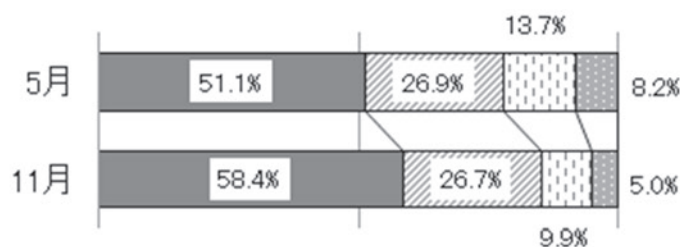
⑦ 道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしている。



肯定的に回答した児童の割合が、5月は88.7%、11月は92.6%でどちらの月も高い傾向がみられる。

11月には「そう思う」とより強い肯定感を示す割合が10.9ポイント増え、「自分の考えを深めたり、話し合ったりしている」と感じている児童が大きく増加している。

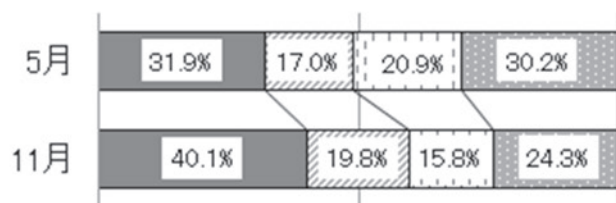
⑧ 道徳の授業で学習したことを、生活の中で思い出したことがある。



肯定的に回答した児童の割合が、5月は78%、11月は85.1%であった。

11月には「よくある」とより強い肯定感を示す割合が7.3ポイント増え、自分の生活の中で関連付けて考えている児童が増加している。

⑨ 道徳の授業で学習したことを、家の人に話したことがある。



肯定的に回答した児童の割合が、5月は48.9%、11月は59.9%であった。どちらの月も、他の質問項目ほど高い傾向は見られなかった。

11月には「よくある」とより強い肯定感を示す割合が8.9ポイント増え、家庭で道徳科の授業について話題にしている児童が増加している。

(3) 研究協議会のまとめ

①第1学年

研究仮説

道徳科において、自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる「対話」を取り入れた学習活動を工夫すれば、自ら考え、心豊かに学び合う児童を育成することができるようになる。

主題名 「しんせつにすると気持ちがいい」B-(6) 親切、思いやり

教材名 「はしの上のおおかみ」(学研 新・みんなのどうとく 1年 P92～94)

ねらい 親切にすると、相手も自分もよい気持ちになることに気づき、誰に対しても思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

【提案事項】

教師との役割演技を取り入れ台詞に答えさせることで、自分事として捉え、考えることができる。

※ここでの「対話」とは、役割演技を通して考えたことや感じたことを、教師を介してやり取りすることであり、「多面的・多角的」に考える活動である。この活動を通して、優しくされた側の気持ちだけでなく、優しくした側の気持ちも考え自分のこれからの行動について考えるようになる。

○成果 ▲課題

○役割演技を通して、おおかみの気持ちを考え、その気持ちの変化に気付くことができ、中心発問での活発な話し合いにつながった。

○児童の発言から出された登場人物の気持ちを、表情マークや矢印などを使い、効果的に掲示することで、以前のおおかみと比較して考えることにつながった。

○教師を介して話す(伝え合う)ことで、児童からねらいに沿った発言が出ていた。

▲めあてが「しんせつにすると、どんなきもちになるだろう」であれば、役割演技と中心発問は、「うさぎをうしろへそっとおろした時のおおかみの気持ち」を考えるとよい。役割演技は手立て、手段であることから、役割演技をする目的は何であるかを考えることが大切である。

▲多面的・多角的に考えさせるために、「何と言ったのか」と発問するより、「どう考えたのか」「どう思ったのか」を話させるとよかった。

▲展開後段で、教材から離れるために導入に戻って具体的な場面を想起させて、「親切にするとどんな気持ちになるか」を考えさせたい。

▲自己を見つめ自分にできる親切について考えるために、してあげたい行為だけでなく、「〇〇してあげたいのはどうして?」と問い返すことで、親切をすることの大切さである「自分の心や相手の心を温かくするすてきなこと」というとらえを意識付けさせることができるのではないか。

【その他】

▲振り返りで、具体的な親切な行動を考えさせるために、何人かに話してもらってから、全体に書く指示をしてもよかった。

▲展開後段・終末でより深く考えさせるために、展開前段で時間を使いすぎないように、時間配分を考えた授業構想をしていく必要がある。

②第4学年

研究仮説

道徳科において、自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる「対話」を取り入れた学習活動を工夫すれば、自ら考え、心豊かに学び合う児童を育成することができるようになる。

主題名 「やりとげる ひたむきな心」A – (5) 希望と勇気、努力と強い意志
教材名 「へこたれない きせきのりんご」(学研 新・みんなの道徳 4年 p 82～85)
ねらい 続けることの苦しさや難しさについて共感的に気付かせることを通して、それでも自分の立てた目標に向かって信念をもって粘り強く取り組んでいこうとする実践意欲を高める。

【提案事項】

木村さんがりんご作りに挑戦し続けた理由をワークシートに書き、友達のと考えを比較しながら話し合うことで、多面的・多角的に考えたり、自分の考えをさらに明確にしたりすることができる。

※ここでの「対話」とは、ワークシートに書いた自分の考えをもとにグループでの話し合いや教師を介した全体での話し合いのことであり、「多面的・多角的」に考える活動である。この活動を通して、「努力を続ける」ことの意義について、続けることの難しさや大切さの両面から自分なりに具体的に考え、これからの自分の行動について考えるようになる。

○成果 ▲課題

- 導入で「目標をもつけど、なかなか続けられない…」ということをみんなで共有したことで、課題につなげていくことができた。
- 「続ける」「続けない」の立場を示すことで、自我関与に向かう活動ができた。
- ワークシートに書かせたことで、比較したり考えを深めさせたりすることを、教師と児童の間でやることができた。
- 自分事として振り返りをすることができた。
- ▲補助発問があれば、木村さんの強い思いをもっと引き出せたのではないか。
- ▲児童から出された言葉に意味付けすることで、多面的・多角的に考えさせることができたのではないか。
- ▲全体で(教師を介して)話し合うだけでなく、少人数で「続ける」「続けない」を話し合ってもよかった。発表した以外にも、「続けない」理由に、児童から「それも分かるのだけれど…」などのつぶやきがあった。少人数で話し合うことで、自分の考えをより明確にしたり、友達のと考えをより理解したりすることができ、多面的・多角的に考えられるのではないか。
- ▲登場人物に自我関与させるのは、自分がよりどころとすべき道徳的な心の在り方であり、結果としての行動ではなく、結果に向かう行為である。人物の生き方の中心となる価値を支えるものは何であるかを考える発問をしていく必要がある。

③第6学年

研究仮説

道徳科において、自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる「対話」を取り入れた学習活動を工夫すれば、自ら考え、心豊かに学び合う児童を育成することができるようになる。

主題名 「心づかいの尊さ」B-（7）親切、思いやり

教材名 「おばあちゃんの指定席」（学研新・みんなのどうとく6年P80～83）

ねらい 相手の状況を想像して行動することの難しさやよさを自分自身の経験と重ねながら多様に考え、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。

【提案事項】

自分だったらどちらに席を譲るかについて、根拠をもとに話し合わせることで、多面的・多角的に考えたり、自分の考えを明確にしたりすることができる。

※ここでの「対話」とは、自分ならどうするかを立場を明確にし、その根拠について、グループでの話し合いや教師を介した全体での話し合いのことであり、「多面的・多角的」に考える活動である。この活動を通して、誰かに限定しての行動ではなく、誰に対しても、必要としている人への行動が大切であることに気づき、これからの自分の行動について考えるようになる。

○成果 ▲課題

- アンケートを活用して、「親切」についてのイメージを全体で共有したことで、学習を通して「本当の親切とは」ということをより深く考えさせることができた。
- 自分ならどうするか自分の立場を明確にし、根拠を示しながらの話し合いはとても有効であった。対話を通して、自分と異なる立場の考えを聞いて自分の考えが変わるなど、自分の考えを深く考えることができていた。
- ゆう子の立場だけでなく、おばあさんや男の人など、様々な立場になって考える発言があった。「自分だったら…」と自分事として考えることができていた。
- 「迷っている」の選択肢があることで、難しさに気付くことができた。
- 登場人物同士の関係性をおさえていたことが、根拠に結び付いていた。
- 揺さぶりの発問や補助発問から子供たちからの言葉を引き出すことができていた。
- 自分の立場を目に見える形(紙コップ)で表現されていて、考えが変わったこともすぐ分かった。
- 「読みの視点」「振り返りの視点」をもたせることで、何が問題なのか何について考えればいいのかの手がかりとなった。
- ▲範読後に「どんなことが気になったか」と聞くことで、「ゆう子が…」と自分の課題としてとらえさせることができるのではないかと。
- ▲子供の発言から、行為の根拠となっている心情を引き出すためには、問い返しが必要となる。授業者は、児童のどのような発言からどのような姿が見られるのか、アンテナを張っておく必要がある。

【その他】

- 話し合いの仕方が型にはまらず自然な感じがよかった。
- グループでの話し合い、全体での話し合いのバランスがよい。

(4) 道徳教育の抜本的改善・充実に係る成果と課題

ア 道徳意識調査と道徳科アンケートの結果から

道徳意識調査で5月と11月共に肯定的に回答した児童の割合が90%以上、及び11月から肯定的に回答した児童の割合が90%以上になった項目は、以下の通りである。

- ③ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。
- ④難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している。
- ⑤友達と協力して取り組んでいる。
- ⑥学校のきまりを守っている。
- ⑦困っている人がいるとき進んで助けている。
- ⑧いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。
- ⑨相手の気持ちを考えて生活している。
- ⑩人のために役に立ちたいと思う。
- ⑮授業中は友達に進んで自分の考えを伝えたり、友達の考えをよく聞いたりしている。

③④に関しては、より肯定感を示す「そう思う」（よくある）の児童の割合が、7.6ポイント増えている。

このことから、ものごとを最後までやりとげてうれしかった児童や難しいことでも失敗をおそれずに、挑戦している児童が増加していると考えられる。⑤に関しては、より肯定感を示す児童の割合が9.3ポイント、⑥に関しては、9.5ポイント増えている。このことから、友達と協力して取り組んだり、学校のきまりを守って生活したりする児童が増加したと考えられる。⑨に関しては、より肯定感を示す児童の割合が12.8ポイント増えている。このことから、相手の気持ちを考えて生活している児童が大きく増加したと考えられる。⑮に関しては、肯定的な回答は5月が93.5%、11月が92.6%と大きく変わりがないが、より肯定感を示す割合が、7.3ポイント増えている。このことから、友達に進んで自分の考えを伝えたり、友達の考えをよく聞いたりしている児童が増加している。

道徳科アンケートで5月と11月共に肯定的に回答した児童の割合が90%以上、および、11月から肯定的に回答した児童の割合が90%以上になった項目は、以下の通りである。

- ①道徳の時間が楽しい。
- ②道徳の学習は役に立つ。
- ③道徳の授業で、自分のことについて考えている。
- ⑤道徳の授業で友達の考えを最後まで聞いている。
- ⑥道徳の授業で、友達の話聞いて『なるほど』と思ったり、自分の考えが変わったりしたことがある。
- ⑦道徳の授業で自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしている。

①に関して、より肯定感を示す児童の割合が8.6%増えている。このことから、道徳の学習を楽しんでいる児童が増加したと考えられる。②に関して、より肯定感を示す児童の割合が5.6ポイント、③に関しては6.4ポイント、⑤に関しては5.1ポイント、⑥に関して5.8ポイント増えている。また、⑦に関しては大きく10.9ポイント増えている。このことから、話し合うことで、友達の考えを理解したり、考えを深めたりしている児童が増えたと考えられる。⑧「道徳の授業で学習したことを思い出したことがある」⑨「道徳の授業で学んだことを、家の人に話したことがある」に関して、他の質問ほど高い傾向に見られなかった項目ではあるが、肯定的な回答がそれぞれ7.1ポイント、11ポイント増えており、児童が生活の中で道徳の授業について思い出したり、道徳の学習について家庭で話題にしたりすることが増えたと考えられる。④「道徳の授業で自分の考えを友達に聞いてもらうのが好きだ」に関しては、他の質問ほど高い傾向に見られなかった。また、肯定的な回答をする児童の割合は5.6ポイント減少する結果となり、話すことへの苦手意識が感じられる。

これらの結果から、本校の道德教育に取り組んできた成果があったことが明らかになった。特に、「相手の気持ちを考えて生活している」や「道德の学習が好きだ」「道德の授業で自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしている」「道德の授業で学んだことを、家の人に話したことある」と肯定的に回答した児童が増えたことが、具体的な成果として表れた。保護者アンケートの「思いやりの心が育っている」の項目については、他項目（「進んで学ぶ子が育っている」「体力をつける意識が高まっている」）に比べると高い評価であったが、昨年度と比較するとやや評価が下がっている。

今後の課題として、さらに学校全体で家庭や地域と連携しながら道德教育について理解を深め、学校と家庭とで児童の道德性を育てていく必要があると考える。

イ 研究協議会のまとめから

研究仮説

道德科において、自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる「対話」を取り入れた学習活動を工夫すれば、自ら考え、心豊かに学び合う児童を育成することができるようになる。

① 自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる「対話」を取り入れた学習活動の工夫

【成果】

- ・ 自分事として捉えさせるために、登場人物の気持ちを自分に置き換えて考えさせる発問や手立てを工夫することで、自分の考えを明確にさせることができた。
- ・ 道德的価値理解を基に、多面的・多角的に捉えることができるように、グループで話し合いや全体での話し合いをすることで、様々な考えに触れることができた。「対話」することで、自分の考えをさらに明確にしたり深めたり、広げたりできるようになってきた。
- ・ 補助発問や問い返しをすることで、児童の心情が明らかになったり、児童の考えを深めたりさせていくことが明らかとなった。

【課題】

- ・ 今後の課題として、何について話し合いたいのか、自分の課題として捉えさせる工夫をしていくことが必要である。
- ・ 児童の考えを深めさせるために教師がファシリテーターとなって、適切な補助発問や問い返しをしたり、児童の発言を意味付けしたりしていくことが必要である。

② 道德科における児童の成長を見取る評価の工夫

【成果】

- ・ 学習後の児童の変容を見取る手立てとして、授業導入時のアンケートと比較して考えたり、振り返りをする際、「今までの自分」「今日の学習での学び」「これからの自分」など、視点をもたせたりすることが有効であった。
- ・ 視点をもたせて振り返ることが、これからよりよい生き方について児童自身が考えられる手立てとなった。

資料 1

令和3年度 道徳教育全体計画



資料2

第1学年 道徳科学習指導案

日 時：令和3年11月11日（木）5校時
 対 象：1年1組 計23名
 授業者：教 諭 三浦 仁美
 （支援員 野呂 由紀）

1 主題名

「しんせつにすると気持ちがいい」Bー（6）親切、思いやり

2 教材名

「はしの上のおおかみ」（学研 新・みんなのどうとく 1年 P92～94）

3 主題

（1）ねらいとする価値について

小学校学習指導要領特別の教科道徳編の内容項目では、第1学年及び2学年のBー（6）「親切、思いやり」には、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」と指導の観点に示されている。よりよい人間関係を築く上で求められる基本姿勢として、相手に対する思いやりの心をもち親切にすることに關する内容項目である。

親切、思いやりは、自分の思い込みや自己満足のためではなく、相手の立場に立ってその心情を思い、自分のこととして受け止めることが大切である。学校、学級での生活が身についてきたこの時期に、相手のことを考える温かい気持ちや親切な行為について考えることが大切と考え、本主題を設定した。

（2）児童の美徳

この時期の児童は、家族だけでなく近所の人々や学校の人々、友達などの関わりが次第に増えてくる。そして、様々な人々との関わりの中で、相手の考えや気持ちに気付けるようになる。

本学級の児童は、まだ自分を中心の考え方をすることが多く、自分勝手な行動をしたり、周りの人に迷惑をかけたたりすることもあり、自分を客観的に見ることが難しい。

そこで、幼い人や高齢者、友達など、児童の身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるように指導していきたい。

【ねらいとする価値に關わる実態調査】（8月24日実施 対象児童23名）

質 問 事 項	児 童 の 回 答
① 誰かに親切にしてもらったことはありますか。	ある 16人 ない 7人
② どんな親切ですか。	・ 落とした物を拾ってもらった8人 ・ 忘れ物を届けてくれた 2人 ・ 勉強を教えてもらった・遊んでもらった ・ あいさつをかえしてくれた ・ 助けてくれた・やさしくされた

③ 親切にしてもらった時、どんな気持ちでしたか。	・ うれしい12人・やさしい2人 ・ ありがとう ・心がふわふわ
④ 誰かに親切にしてあげたことはありますか。	ある 14人 ない 9人
⑤ どんな親切ですか。	・ 落とした物を拾った5人 ・ 勉強を教えた2人 ・ 物を貸した・絵を描いてあげた ・ 泣いているとき声をかけてあげた

<考察>

学級の大半の児童が親切にしてもらったり、したりすることが分かる。親切にした相手や親切にしてもらった相手は友達がほとんどである。友達に親切にされて嬉しかった経験はあるが、自分が親切にすると自分自身も嬉しくなることに、気付いていないことも考えられる。

【道徳科の授業に關わる実態調査】（7月15日実施 対象児童23名）

質 問 項 目	児 童 回 答 (人)		
	4	3	2
① 道徳の学習が好きだ。	13	8	0
② 道徳の学習は役に立つと思う。	15	6	1
③ 道徳の授業で、自分のことについて考えている。	16	6	0
④ 道徳の授業で、自分の考えを最後まで聞いてもらおうのが好きだ。	17	5	0
⑤ 道徳の授業で、友達の話聞いて『なるほど』と思っている。	16	6	1
⑥ 道徳の授業で、友達の話聞いて『なるほど』としたり、自分の考えが変わったりしたことがある。	15	6	2
⑦ 道徳の授業で学習したことを、生活の中で思い出したことがある。	13	8	2
⑧ 道徳の授業で学習したことを、家の人に話したことがある。	10	1	2

4…そう思う（よくある）3…たいいたいそう思う（ある）2…あまりそう思わない（あまりない）1…そう思わない（ない）

<考察>

道徳の授業に意欲的に取り組んでいる児童が多い。道徳の時間には、自分の意見を積極的に発表する児童もいる反面、苦手意識をもっている児童もいるので、学級全体で思いを受け止めながら聞くことのできる雰囲気作りをしていきたい。

（3）教材について

本教材は、大きくまととの関わりで変化しおおかみの気持ちを考えることを通して、ねらいに迫るものである。一本桶で、うさぎやたぬきを追い返していたおおかみだったが、大きくまくに優しくされたことから、相手を思いやり、親切にすることの気持ちよさに気付く内容である。

本教材では、おおかみが大きくまきの優しい態度に接して、今までの自分の行動を振り返り誰に対しても思いやりの心をもつて接することの大切さについて考えさせていきたい。

4 校内研究との関わり

① 自己をみつめ、多面的・多角的に考えることができる「対話」を取り入れた学習活動の工夫
 自分自身の事として捉えさせるために、動作化や役割演技を取り入れて、登場人物の気持ちを自

分に置き換えて考えさせている。そして、登場人物の気持ちの表情マークを使って表している。また、道徳的価値理解をもとに、多面的・多角的に考えさせるために、ペアで交流する場を設け、様々な考えに触れさせている。そして、全体の場で発表することによって、友達の良い発言を聞きながら少しずつ価値につながるようにしている。

本時では、一本橋でおおかみくまと出会う場面で、教師との役割演技を取り入れ台詞に答えさせることで、自分事として捉え考えることができるようにさせたい。

②道徳科における児童の成長を見取る評価の工夫

児童の学習状況や道徳性に関わる成長の様子を継続的に見取り、児童自身も自分の考えの成長や成長を感じることで、学習で使ったワークシートを道徳のノートに集積している。長い期間を通じて記録を見取っていくことで、児童の考え方や感じ方の緩やかな変化や成長も認め、把握していきたい。

本時では、「親切」に関する事前アンケートと終末の振り返りを比較しながら、本時の学習を通しての一人一人の成長を見取っていききたい。

5 本時の学習

(1) ねらい

親切にすると、相手も自分もよい気持ちになることに気付き、誰に対しても思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

(2) 提案事項

★教師との役割演技を取り入れ台詞に答えさせることで、自分事として捉え考えることができる。

(3) 展開

段階 (時間)	学習活動	指導上の留意点 評価評価	★提案事項
5	<p>○発問 ◎中心発問 ◇指示 ・予聴される児童の反応</p> <p>1 価値への方向付けをする。 ◇みんなが今まで、親切にしてもらったことを紹介します。 ・落とした物を拾ってもらった。 ・忘れ物を届けてもらった。 ・分らないことを教えてもらった。 ○親切にしてもらった時、どんな気持ちでしたか。 ・うれしかった。 ・優しいと思った。 ・ありがたうと思った。</p>	<p>・事前のアンケート結果を話すことで、親切にされた場面を想起し、ねらいとする価値へ方向付けをする。</p>	
分	<p>2 課題意識をもたせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>しんせつにすると、どんな気持ちになるだろう。</p> </div>		

	<p>3 「はしの上のおおかみ」の話を聞いて、話し合う。</p> <p>○うさぎを通せんぼをして「えへんへん。」と言った時、おおかみはどんなことを思っただけでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おれは強いぞ。 ・うさぎを通したくないな。 ・いぼって、いい気持ち。 ・楽しくなってきたぞ。 ・他の人にもやろう。 <p>◇橋の上のくまとおおかみになってみましょう。 ○くまが「いや、いいんだ。こうすればいいのさ。」と言った後、おおかみはなんと言っただけでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがたう。 ・くまさんは、やさしいね。 ・すこいね。 ・いい考えだね。 ・もどらなくていいんだ。 ・いい方法だね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居を用いてゆっくりに読み、教材の世界に浸らせる。 ・おおかみの絵を提示して、強い、こわいイメージをもたせながら話を進める。 ・おおかみの気持ちを考えながら聞くようにする。 ・自分よりも弱い物に意地悪をしておもしろいと感じているおおかみの気持ちを捉えさせる。 ・表情マークを貼り、登場人物の心情を視覚的に捉えさせる。 ・場面把握をしつかりしてから役割演技をさせる。 ・児童がおおかみ役、教師がくま役になり、おおかみが橋を渡らせてもらったときの気持ちを考えさせる。 ・おおかみ役と見ている児童には、「いや、いいんだ。こうすればいいのさ。」のくまの台詞に答えさせる。 <p>★教師との役割演技を取り入れ台詞に答えさせることで、自分事として捉え考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまの優しさ、くまへの憧れ今までの反省など多様な考えを出させる。(補助発問) ・くまに会う前のおおかみはどうかうだったかな。 <p>○次の日、うさぎをうしろへそっとおろした時、おおかみはどんな気持ちになったでしょう。</p>
展		
開		
30		
分		

(4) 板書計画

はしのうえのおおかみ

しんせつにすると
どんなきもちになるかな

うれしい
いいきもち
すつきり

とせんぼした おおかみ

だのしいな
もつと やりたいな
おれは つよいぞ

うしろがなをひいた おおかみ

やさしいな
くまみたいになろう
まねしたいな

うしろをもちあげた おおかみ


すつきりした
しんせつはきもち
いい

- ・じぶんもくまさんみたいになれたから
- ・すつきりしたから
- ・やさしくしたほうがいいきもちだから

はしのうえのおおかみ (十一月十一日)

なまえ

これから、がつこうで どんな しんせつができそうぞすか。



- ① じぶんのかんがえをはなすことができましたか。()
- ② ともたちのかんがえをしつかりきくことができましたか。()
- ③ これからのじぶんについてかんがえることができましたか。()

	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしいな。 ・なんかない気持ちだな。 ・くまさんみたいになれてよかった。 ・うさぎさん、うれしそうだな。 <p>○おおかみは、どうして前よりずっといい気持ちになつたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分もくまさんみたいになれたから。 ・すつきりしたから。 ・いじわるするより、優しくする方がいい気持ちだから。 ・うさぎがよるころこんでくれたから。 <p>4 道徳的価値について考える。</p> <p>○親切にすると、どんな気持ちになるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしくなる。 ・いい気持ちになる。 ・すつきりする。 ・みんながうれしくなる。 ・自分も相手もよい気持ちになる。 	<p>かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表情マークを貼り、登場人物の心情の変化を視覚的に捉えさせる。 ・くまに親切にされたことで、おおかみがそのよさに気付いたことを押さえる。 ・親切にすると、自分も相手もよい気持ちになることを押さえる。
<p>終末 10分</p>	<p>5 自己をみつめ自分のできる親切について考える。</p> <p>◇これから、学校ではどんな親切ができそうですか。</p> <p>ワークシートにかきましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている友達がいいたら、手伝ってあげたい。 ・友達が忘れ物をしたら届けてあげたい。 ・落とし物を拾ってあげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の場面で聞いたことを想起させ、道徳的価値のもと、今ならどんなことができるのか考えさせる。 ・親切にすると、自分も相手もよい気持ちになることに気がつき、誰に対しても思いやり的心をもつて接することの大切さについて自己を振り返り、考えている。 <p>(ワークシート・発表)</p>

第4学年 道徳科学習指導案

日時：令和3年11月11日(木) 5校時

対象：4年1組 計31名

授業者：教諭 古川 尚子

- 1 主題名 「やりとげると ひたむきな心」A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志
- 2 教材名 「へこたれない きせきのりんご」(学研 新・みんなの道徳 4年 p82～85)
- 3 主題

(1)ねらいとする価値について
 小学校学習指導要領特別の教科道徳編の内容項目では、第3学年及び第4学年のA-(5)には、「自分でやりとげると決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。」と指導の観点が示されている。

児童が一人の人間として自立してよりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。誰も強い意志をもって継続することは難しいものではあるが、多少の困難にめげることなくしっかりと努力を続け、やり抜く忍耐力を養うことが肝要であると、考え、本主題を設定した。

(2)児童の実態

4年生の段階は、勉強や運動だけではなく、様々なことに興味・関心を広げ、活動的になる。自分の好きなことに興味して、自ら目標を立て、継続して取り組むようになり、計画的に努力する態も身に付けてくる。

だが一方で、自分でやらなければならないことであっても、辛いことや苦しいことがあると、途中であきらめてしまったり、違うことに興味がいつてしまったりすることもある。そこで、あきらめずに粘り強くやり抜く強い意志が必要であることや、あきらめてしまうことの弱さ、今よりよくなりたいたいという願い、努力しようとする姿などについて、考えを深めていくことが大切になる。

そこで、あきらめずにがんばるためにはどんな気持ちや考え方が大事になるのかを考え、これからの生活で希望をもって取り組んでいこうとする実践意欲を育みたい。

【ねらいとする価値に関わる実態調査】(10月8日実施 対象児童31名 未調査2名)

質問事項	児童の回答
1. 今の目標は何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・遊上りができるようになりたい、できるようになることが増えるから。 ・全教科。将来の夢に「船舶」が大層だから。 ・車を運ぶ。マラソンで1位をとってみたいから、マラソンが楽しくなるから。 ・スイミング。できると達成感があるから、オリンピックに出たいから。 ・野球。試合で活躍したいから。 ・いるいるな人にあいさすする。今、はずかしくてできないから。 ・お手伝いをたくさんする。家族に少しでも休ませたいから。 ・ピアノ。ひけたらカッコいいから。 ・ない。今の自分のままでいいから。
2. 目標に向かってがんばってよかったと思うことはありましたか。	<p>ある25人 ない4人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前より楽しくなった。・前より上手になった。 ・家の人が応援してくれた。・胸をはって学校に行ける。 ・ほめてもらってうれしくなった。・前よりもっと好きになった。 ・自分で成長したと思った。・たってもっともらえたい。 ・達成するとスッキリして気持ちがいい。

<考察>

①の質問から、自分の目標をもって生活している児童が多くいることがわかった。また、どの児童も自分が何のためにその目標に向かっているのか、理由もはっきりしている。

②の質問では、目標に向かう良さをきいた。多くの児童が達成感や自分自身の成長を感じることができるといふ経験をしていることがわかる。

【道徳科の授業に関わる実態調査】(7月20日実施 対象児童31名 未調査1名)

質問事項	児童回答(人)				
	※()の数は5月の実態調査				
①道徳の学習が好きだ。	4	3	2	1	
②道徳の学習は役に立つと思う。	16 (18)	14 (10)	0 (1)	0 (1)	
③道徳の授業で、自分のことについて考えている。	26 (25)	6 (5)	0 (0)	0 (0)	
④道徳の授業で、自分の考えを友達に聞いてもらおうのが好きだ。	18 (21)	9 (5)	2 (2)	1 (2)	
⑤道徳の授業で、友達の考えを最後まで聞いている。	9 (9)	9 (16)	7 (4)	5 (1)	
⑥道徳の授業で、友達の話を聞いて『なるほど』と思ったり、自分の考えが変わったりしたことがある。	20 (20)	8 (9)	2 (1)	0 (0)	
⑦道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしている。	24 (25)	3 (5)	3 (0)	0 (0)	
⑧道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしている。	19 (20)	9 (7)	2 (3)	0 (0)	
⑨道徳の授業で学習したことを、家の人に話したことがある。	18 (16)	9 (10)	3 (4)	0 (0)	
⑩道徳の授業で学習したことを、友達の話を聞いて『なるほど』と思ったり、自分の考えが変わったりしたことがある。	5 (6)	8 (9)	7 (2)	10 (13)	

4…そう思う(は)ある、3…思えば(は)思う(ある)、2…あまり(は)思わない(ない)、1…そう思わない(ない)

<考察>

クラス全員が、道徳の授業が好きだと答えている。しかし、中には、いろいろな話が話めるからという理由で好きな児童もいる。そういう児童にとっては、自分の考えをもって話し合うことに必要性を感じることができず、話し合い活動に苦手意識を抱いてしまっているように考えられる。

2学期からは、終末に自分たちの生活のどの場面で学習が生かせそうか、全体で考える時間とっている。そうしたことで、子どもたちが生活の中で道徳での話を持ち出した、他の教科で道徳の掲示物を指して話をしたりしている姿がみられるようになってきた。少しずつではあるが、生活の中で学習を思い出していると考えられる。

(3)教材について

本教材は、実際にあった話を教材化したもので、りんご農家の木村さんが自然栽培でりんごを育てることを目指し、たくさんの困難を乗り越えて成功させるまでを描くことを通して、ねらい

にせまるものである。
7年間りんごが採れなくても、農業に弱い妻のために「農業を使わないうりんごを育てる」という初心を貫き強い意志をもち続ける姿から、粘り強くやり抜く強い意志について学ぶことができる教材である

4 校内研究との関わり

① 自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる「対話」を取り入れた学習活動の工夫
自分自身の事としてとらえさせるために、「自分だったら」とその時の気持ちや行動の理由を
考えたり、立場を決めて自分の意見をワークシートに書き表したりすること、自分の考えを明
確にもつこととすることができるようにしている。担任とのやりとり、友達とのやりとりのや
りとりなど学習形態を工夫してすることで、物事や事象を多面的・多角的に考えようとする姿勢
が育ってきた。
本時では、木村さんのように、自分のやりやうとされていることがうまくいかないときに、
自分だったらどうするかを考えたり、ワークシートに木村さんが最後までやり遂げたわけを書
き、グループで話し合うことで、困難が多い時や気持ちが強くなるようなとき、自分の気持ち
多面的・多角的に考えることができるようにしていきたい。

② 道徳科における児童の成長を見取る評価の工夫

自身の成長や考え方の変化や深まりが担任だけでなく自分自身でも見ることができるよう
ノートに右側には、事前アンケートやワークシートを貼ったり、授業中の話合いや友達との交流
のメモなどを残したりしている。左のページには、ふりかえりを書いている。今日の道徳は何に
ついて考えたか、学習中に自分はどうなことを考えたのか、そして学習の最後にはど
んなことを考え、そのことをこれから自分の生活にどのように生かしていくかを書いている。
本時では、今日の学習がこれからの自分の生活のどんな時に生かせるか考えさせることで、困
難があったときでもあきらめず自分なりに前向きに取り組もうとする児童の成長を見取ってい
きたい。

5 本時の学習

(1) ねらい
続けることの苦しさや難しさについて共感的に気付かせることを通して、それでも自分の立
つた目標に向かって信念をもって粘り強く取り組んでいこうとする実践意欲を高める。

(2) 提案事項

★ 木村さんがりんご作りに挑戦し続けた理由をワークシートに書き、友達のと比較しながら
話し合うことで、多面的・多角的に考えたり自分の考えをさらに明確にすることができる。

(3) 展開

段階 (時間)	学習活動	指導上の留意点	提案事項	評価
1	<p>○ 発問 ◎ 中心発問 ◇ 指示</p> <p>主題について意識を高める。</p> <p>○ 「へこたれない」ってどういうことですか。</p> <p>・ あきらめない</p> <p>・ 強い</p> <p>・ 負けない</p> <p>○ みんなが、今頑張っている目標は何ですか。</p> <p>・ 習い事</p> <p>・ お手伝い</p> <p>・ わすれものをなくす</p>	<p>・ 教材名を板書する。</p>	<p>★ 提案事項</p> <p>★ 木村さんがりんご作りに挑戦し続けた理由をワークシートに書き、友達のと比較しながら話し合うことで、多面的・多角的に考えたり自分の考えをさらに明確にすることができる。</p>	<p>評</p>
5	<p>○ みんなが、今頑張っている目標は何ですか。</p> <p>・ 習い事</p> <p>・ お手伝い</p> <p>・ わすれものをなくす</p>	<p>・ アンケートをもとに、今よりもよりよい方向へと目指していくために、自分で目標を決めているということに気付かせる。</p>		
分	<p>2 課題意識をもつ</p> <p>自分で決めた目標に向かってがんばるために大切なことは何だろう。</p>			
3	<p>◇ 範読を聞いて課題について話し合う</p> <p>◇ 教師の範読を聞く。</p>	<p>・ 教科書を範読する。</p>		

展	<p>○ 無農薬のりんごをつくるまでに、どんなことがあったでしょうか。</p> <p>・ りんごがとれない</p> <p>・ 木がかれてきた</p> <p>・ 取入がない(生活が苦しい)</p> <p>・ 木がかわってきた</p> <p>・ りんごにつらい思いをさせている</p> <p>・ にんにくやわさびをまいた</p> <p>○ 自分なら続けますか。</p> <p>【続ける】</p> <p>・ 頑張ってきたことを無駄にしたくないから</p> <p>・ 家族に食べさせたいから</p> <p>【続けない】</p> <p>・ ずっと家族に苦しい思いをさせるから</p> <p>・ 何年も頑張ることはできそうにないから</p>	<p>★ 木村さんがりんご作りに挑戦し続けた理由をワークシートに書き、友達のと比較し、多面的・多角的に考えたり自分の考えをさらに明確にすることができる。</p> <p>(補助発問)</p> <p>・ おくさんがもう止めようと言ったとしたらどうでしょうか。</p> <p>・ 最初から困難があると分かっていたら、やらなかったでしょうか。</p>	<p>・ 木村さんの目標を確認する。</p> <p>・ 気持ちが出た場合には、なぜそのような思いをしたのかと聞き、出来事や結果とつながるようにする。</p> <p>・ 順調に物事が上手にいかなかったことを確認する。</p> <p>・ りんごができていないこと、取入がないことなども提示していく。</p> <p>・ 続けるか続けないか、それぞれの理由も聞くことで続けることの難しさや大切さを考えていく。</p>	
開	<p>◎ 木村さんが、何年間もりんごづくりに挑戦したのはなぜだろう。</p> <p>・ 生活が大変だけれど、自分で決めたことだし、おくさんのためだから。</p> <p>・ 無農薬のりんごはだれも作っていないから、自分が作らないとおくさんが安心してりんごが食べられないから。</p> <p>・ 5年やっかけて、ここでも上手くなっていないけど、ここでやめてしまったらこれまでの努力がむだになるから。</p> <p>・ いまは、苦しいけど成功したらおおくさんや子どもも喜ぶし、周りの人もあきれ顔でみなくなるから。</p>	<p>4 道徳的価値について考える。</p> <p>○ 目標に向かってがんばるために大切なことはなんだろうか。</p> <p>・ どんなに困難が続いても、何度も何度も挑戦し続けること。</p> <p>・ その時は苦しくても、はじめの気持ちを思い出してがんばること。</p> <p>・ だれかにあきらめられたとしても、自分が決めたことはやりぬこうとする強い気持ち。</p> <p>・ 最初から上手にいかなくても、いつかは上手にいくと信じていること。</p> <p>・ 自分がやっていることは、だれかの役に立つんだという気持ち。</p>	<p>・ 困難をどんな気持ちで乗り越えていけばよいか「たとえ〜でも」という考えを取り上げていく。</p> <p>・ 事前アンケートを活用し、自分事として考えられるようにする。</p> <p>・ 木村さんの最後の気持ちやこれまでの経験をもとに、苦労や困難にくじけずに乗り越えようとする。こと、未来や気持ちに少しは良い方向に向かうことに気付かせる。</p>	<p>・ 道徳的価値について、自分の考えを具体的にまとめていく児童を数名、意図的に指名する。</p> <p>評</p> <p>続けることは難しいことだが、自分の気持ちを变えずに、最後までやり遂げようという意欲を高めている。</p> <p>(ノート)</p>
終	<p>5 道徳的価値をもとに、自己を見つめる。</p> <p>○ 今日の道徳は、これからの自分の生活のどんな時に生かしていきたいですか。</p> <p>・ 今まででは難しいと思うとすぐにあきらめられてしまうことがあったけれど、あきらめなければできるようになると思いました。</p> <p>・ これからなかなか目標が達成できなくても、はじめたときの気持ちを思い出して、自分を信じて頑張ろうと思います。</p>			
未				
10				
分				

(4) 板書計画

11/11 へこたれない きせきのりんご

目標
がんばるもの
今の自分より上へ → 続けるのは難しい

でも
自分で決めた目標に向かってがんばるために
大切なことはなんだろう

続ける

無農薬で安全なりんごをつくりたい
収入がないから生活が苦しい
5年目にはかえれはじめ
自分の子供につらいおもいをさせている
1年、2年、3年りんごがとれない
にんにく、わさびまいたけどだめ
はげましたけどりんごができない

続ける

必ず成功させてやる
今は苦しくても
うまくいくかは分からなけれど
まわりの人に何を思われても
大切なこと
・くじけそうになっても、あきらめない気持ち
・何度もチャレンジすること
・いつかはやさけると信じていること
・つらくてもさいごまでやろうとする気持ち

続けない

やる気が出ない
もうやめよう
子供につらい思いをさせてまで
どうしたらいいのだろう
何をしてもだめだ

自分なら

続ける

木村さんがりんごづくり
ちよう戦し続けることが
できたのはなぜだろう。

続けない

めあて

へこたれない きせきのりんご

月 日 名前

第6学年1組 道徳科学習指導案

日 時：令和3年11月11日(木) 5校時

対 象：6年1組、愛育学級 計21名

授業者：教 諭 板谷 真貴子

- 1 主題名 「心づかいの尊さ」B－(7) 親切、思いやり
- 2 教材名 「おばあちゃんの指定席」(学研 新・みんなのどうとく 6年 P 80～83)
- 3 主題

(1) ねらいとする価値について

小学校学習指導要領特別の教科道徳編の内容項目では、第5学年及び6学年のB－(7)「親切、思いやり」には、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」を指導の観点としている。この「親切、思いやり」は、社会生活の中でよりよい人間関係を構築する上で必要なことである。

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。相手のことを思いやり、相手にとりて本当に必要なことを見いだせる豊かな心を養っていきたいと考える。そのためには、相手の立場に立つことを強調する必要がある、自分自身が相手に対してどのよう接し、心を配ることが相手のためになるのかをよく考えることができるようにすることが大切であると考える、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

6年生の段階の児童は、自他を客観的に捉えることができるようになってくる。そのため、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像し、相手の気持ちや立場をより深く理解できるようになる。また、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所や交通機関などの広い範囲で、困っている人に出会ったとき、自分にできることはないかと考えられるようになっている時期である。

本学級の児童は、授業中作業が遅れている友達に手伝ったり、困っている友達に声をかけたたり助けたりする姿が多く見られる。しかし、休み時間など他学年との関わりにおいて、思いやりの気持ちはあるものの、なかなか行動に移せない児童もいる。また、同学年であっても、友人関係の深さによって親切な行動に違いが見られることもしばしばある。

そこで、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為や心づかいを、児童が接する全ての人に広げていこうとする気持ちをもちたいと考えている。そのために、児童が多様な人々と触れ合い、助け合っって何かをするような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるよう工夫して指導していきたい。

【ねらいとする価値に関わる実態調査】(8月27日実施 対象児童21名)

質 問 事 項	児 童 の 回 答
①これまで、人に親切にして喜んでくれたことがあるか。	・レジでお金を落として気付いていなかった時、拾って届けてあげた。相手に喜んでもらえてうれしかった。

すか。

<ul style="list-style-type: none"> ・友達が転んだ時に「大丈夫」と言ったら、友達は、ちよっとうれしそうな顔をした。 ・1年生が掃除場所が分からなくなってきた時に、教室まで連れて行った。「1年生は、「ありがとう」と言ってくれそうだった。 ・けがをした時に、近所の人に助けてもらった。とてもうれしかった。 ・おばあちゃんが重い荷物を持っていたので、友達と一緒に手伝った。とても喜んでくれた。 ・スーパで知らないおばあちゃんが、カートにカゴを置けなかった時に、カートを押さえてあげた。「ありがとう」と言ってくれた。 ・道に迷っていた人に道を教えたら「ありがとう」と言われた。 ・お年寄りの人に荷物を持たせてあげたら、自分の気持ちがすっきりした。 ・親切にしたら、自分の気持ちが良かったかくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんが重い荷物を持っていたけど、急いでいたので助けてあげられなかった。 ・下級生が、教室で泣いていたけど、自分の教室ではないので声をかけられなかった。 ・自分より年上の人がいたら、怖くて声をかけられなかった。 ・友達のお母さんがハンカチを落としたが、他の人と話をしていたので恥ずかしくて声をかけられなかった。 ・目が不自由そうな人に声をかけられなかった。迷惑かと思っただから。 ・迷惑になったら嫌だから、できないことがあった。
--	---

② これまでに、親切にしようと思ってもできなかったことがありますか。

<ul style="list-style-type: none"> ・人に優しくすること。 ・困っている人を助けること。 ・人に優しくするための行動。 ・誰にでも優しくすること。 ・困っている人を自分から助けること。 ・人にしてほしいこと、自分がされてうれしいこと。 ・自分が何かをしてあげること、相手がうれしい気持ちになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人に優しくすること。 ・困っている人を助けること。 ・人に優しくするための行動。 ・誰にでも優しくすること。 ・困っている人を自分から助けること。 ・人にしてほしいこと、自分がされてうれしいこと。 ・自分が何かをしてあげること、相手がうれしい気持ちになること。
---	---

③ あなたが考える親切とは何ですか。

<ul style="list-style-type: none"> ・人に優しくすること。 ・困っている人を助けること。 ・人に優しくするための行動。 ・誰にでも優しくすること。 ・困っている人を自分から助けること。 ・人にしてほしいこと、自分がされてうれしいこと。 ・自分が何かをしてあげること、相手がうれしい気持ちになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人に優しくすること。 ・困っている人を助けること。 ・人に優しくするための行動。 ・誰にでも優しくすること。 ・困っている人を自分から助けること。 ・人にしてほしいこと、自分がされてうれしいこと。 ・自分が何かをしてあげること、相手がうれしい気持ちになること。
---	---

< 考察 >

帰りの会で行っている「かがやきコーナー」の中で、毎日のように友達に親切にしてもらったことを話している様子から、学級の中では親切な行動をしたり、親切にされたことについてうれしさや感謝の気持ちを表現したりしている。アンケートから、友達以外でも親切な行動をする児童がいる一方で、知らない人には恥ずかしさや「迷惑に思われるのではないか」という気持ちがあり、親切な行動を押さえってしまう児童もいることが分かる。

また、「親切」の意味については、困っている人に優しくする、困っている人を助けるという考えをもっている児童が多い。

アンケート結果を生かし、本時では、話し合いを通して「誰に対しても」「状況を考えて」親切にす

ることの大切さに気付かせていきたい。

【道徳科の授業に関わる実態調査】(7月21日実施、対象児童20名 *1名欠席)

質 問 事 項	児童回答(人)			
	※()の数は5月の実態調査			
	4	3	2	1
①道徳の学習が楽しい。	9 (7)	9 (7)	1 (4)	1 (3)
②道徳の学習は役に立つと思う。	11 (11)	8 (7)	1 (3)	0 (0)
③道徳の授業で、自分のことについて考えている。	12 (13)	8 (7)	0 (3)	0 (0)
④道徳の授業で、自分の考えを友達に聞いてもらうのが好きだ。	9 (5)	5 (11)	5 (4)	0 (1)
⑤道徳の授業で、友達の考えを最後まで聞いている。	16 (18)	4 (3)	0 (0)	0 (0)
⑥道徳の授業で、友達の話を聞いて『なるほど』と思ったり、自分の考えが変わったりすることがある。	18 (14)	2 (5)	0 (1)	0 (1)
⑦道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしている。	16 (14)	4 (7)	0 (0)	0 (0)
⑧道徳の授業で学習したことを、生活の中で思い出したことがある。	11 (7)	6 (5)	3 (6)	0 (3)
⑨道徳の授業で学習したことを、家の人に話したことがある。	3 (1)	6 (1)	8 (9)	3 (10)

4…そぼろ(は)る、3…おぼろ(は)る、2…おぼろ(は)る、1…おぼろ(は)る

<考察>

学年当初に比べ、道徳科の授業に意欲的に取り組む児童が増えてきた。登場人物の気持ちや文脈に沿って読み取るのではなく、「自分だったら」と自分に置き換えて生活と結びつけて考えたりすることで、道徳科の授業に対する抵抗感が少なくなってきた。また、話し合いの中で自分の考えを話すことに苦手意識をもっている児童もいる。3～4人のグループの中で、フリートークをすることで友達の考えを聞いたり友達の考えを受けて話したりする機会を、授業の中に位置付けることにより、気盛に話し合える雰囲気大切にしていきたい。

(3) 教材について

本教材は、けがをした男の人に席を譲ったことで、仲良くなったおばあさんに席を譲れなかった登場人物(ゆう子)の姿を考えることを通して、ねらいに迫るものである。

ゆう子は、電車内で、途中で乗ってくるおばあさんに席を譲る約束をしていたが、前の駅で足をけがしている男性に対して、迷いながらも席を譲る。席がないことをおばあさんに謝ったところ、おばあさんが笑顔で大きくうなずいたという内容である。

男性に席を譲るゆう子の心情や行為に自分を重ねて考えることを通して、相手の立場に立った思いやりの心と親切な行為、心づかいの素晴らしさや難しさを考えることができるようにしたい。

4 校内研究との関わり

- ①自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる「対話」を取り入れた学習活動の工夫
 自分自身の事としてとらえさせるために、登場人物の気持ちや自分に置き換えて考えさせワークシートに書くことで、自分の考えを明確にさせている。また、道徳的価値理解をもとに、多面的・多角的にとらえる事ができるように、グループで話し合い様々な考えに触れることにより、自分の考えをさらに明確にしたり深めたり、広げたりできるようにしてきた。
 本時においては、登場人物が置かれていた立場をもとに、自分だったらどちらに席を譲るかということについて「おばあちゃんに譲る」「けがをした男の人に譲る」「どちらか悩んでいる」という立場から自分の立場を決め、根拠をもとに話し合わせることで、ゆう子がした親切の意味について多面的・多角的に考えることができるようにしていきたい。
 また、終末での振り返りをすすめる際、「今までの自分」「今日の学習での学び」「これからの自分」について振り返らせることで、これからの自分の生き方と結びつけて考えさせていきたい。

②道徳科における児童の成長を見取る評価の工夫

児童の学習状況や道徳性に関わる成長の様子を継続的に見取り、児童自身も自分の考えの変遷や成長を感じるように、学習で使用したワークシートを道徳ノートに集積している。
 また、事前アンケートと終末の振り返りを児童自身が比較することで、自己の考えの深まりを実感できるようにしている。

1時間の授業における児童の学習状況について、児童の発言や話し合いの様子、ワークシートへの記述だけでなく、役割演技や動作化したといった体験的な学習や態度面、ネームプレートや心情円盤など児童の思いを表出させる活動をもとに、評価の着眼点に沿って記録することで、児童のよさや成長を見取ることができるようになっている。長い期間を通じて記録を蓄積していくことで、児童の考え方や感じ方の緩やかな変化や成長も認め、把握できるように継続して見取っていききたい。

5 本時の学習

(1) わらい

相手の状況を想像して行動することの難しさやよさを自分自身の経験と重ねながら多様に考え、誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立つて親切にしようとする心情を育てる。

(2) 提案事項

- ★自分だったらどちらに席を譲るかについて、根拠をもとに話し合わせることで、多面的・多角的に考えたり自分の考えを明確にしたりすることができる。

<p>ら。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃん指定席だから。 ・おばあちゃんはお年寄りだから。 ・おばあちゃんと仲良くなったから。 ・おばあちゃんの喜ぶ顔が見たいから。 	<p>は、その理由を話してもらう。</p> <p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の人が困っているのに、知り合いのおばあさんに席を優先するなんてあんまりではないかな。 ・なぜ、おばあちゃんと約束するようになったのですか。 	<p>は、その理由を話してもらう。</p> <p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の人が困っているのに、知り合いのおばあさんに席を優先するなんてあんまりではないかな。 ・なぜ、おばあちゃんと約束するようになったのですか。
<p>32</p> <p>分</p>	<p>けがをした男の人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立っているのが辛そうだから。 ・また転んでけがをする方が危険だから。 ・今すぐ譲った方がよいと思うから。 ・近くに困っている人がいるから、そつちを優先させるから。 	<p>迷っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の人に譲ってあげたいけど、おばあちゃんと仲良くなったから。 ・知らない人に声をかけられない。
<p>4</p> <p>展</p> <p>開</p>	<p>○では、主人公のゆう子さんは最終的にどうしたのでしょうか。</p> <p>◎ゆう子さんが大切にしたかったものは、何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その状況で助けを必要とした人を優先すること。 ・知り合いだけでなく、助けを必要とする人を助けること。 ・今その場で困っている人を優先させること。 	<p>・残りの部分を範読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えを交流させ、全体で数名発表させる。 ・ゆう子さんの心を動かしたことは何か。
<p>4</p> <p>展</p> <p>開</p>	<p>道徳的価値について考える。</p> <p>○本場の親切とは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲のよい人だけでなく、誰にでもその場の状況で判断して助けること。 ・状況を考え、優しくすること。 	<p>・事前アンケートで回答した「親切」の意味と対比させて考えさせる。</p> <p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切について、学習する前と比べて、新たに気付いた大切なことはどんなことですか。

(3) 展開

段階 (準備)	学 習 活 動	指導上の留意点 ★提案事項 評価評価
○発問 ◎中心発問 ◇指示	<p>・「おばあちゃん指定席」を、課題意識をもたせる。</p> <p>○ゆう子さんの中で問題になっていたことは、どんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんに席を譲るか、けがをしている男の人に席を譲るか迷っていること。 ・どちらの行動も親切だけど、ゆう子は悩んでいること。 <p>○今日の学習で考えていくことはどんなことですか。</p> <p>親切にするとは、どういうことだろうか。</p>	<p>・事前アンケートを提示し、親切にできた時、できなかった時の気持ちに触れ、本時の価値へと方向付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範読する前に、挿絵を示しながら簡単に話の流れを伝える。 ・読み視点を与える。 ・読み視点：ゆう子さんが困っていることはどんなことなのか。 ・P80～82L15まで範読する。 ・どんなことで困っていましたか。 ・児童の中で気付きをもとに、課題を設定していく。
1	<p>価値への方向付けをする。</p> <p>○これまで、親切にしたりできなかったりしたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が困っていた時に、消しゴムを貸してあげた。 ・知らない人にはあまり親切にできない。 <p>○あなたにとつての親切とは、何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人に優しくしてあげること。 ・自分が何かをしてあげること、相手がいれしい気持ちになること。 	<p>・ゆう子さんと2人の関係を確認し、板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立場を決めて、根拠をもとに話し合わせる。(グループ→全体) ・自分の立場は、紙コップの色で表現させる。
2	<p>○ゆう子さんの中で問題になっていたことは、どんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんに席を譲るか、けがをしている男の人に席を譲るか迷っていること。 ・どちらの行動も親切だけど、ゆう子は悩んでいること。 <p>○今日の学習で考えていくことはどんなことですか。</p> <p>親切にするとは、どういうことだろうか。</p>	<p>・児童の発言の中から、「仲良くなった」という言葉を引き出すようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆう子さんと2人の関係を確認し、板書する。 ・立場を決めて、根拠をもとに話し合わせる。(グループ→全体) ・自分の立場は、紙コップの色で表現させる。
3	<p>課題について話し合う。</p> <p>○はじめはおばあさんに対して席を譲ろうか迷っていたゆう子さんですが、なぜおばあさんのために席を譲ろうと思ったのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんが喜んでくれたから。 ・おばあさんの笑顔が見たいから。 ・おばあさんが喜んでくれてうれしかったから。 ・おばあさんと仲良くなったから。 <p>○みなさんがゆう子さんだったら、どちらに席を譲りますか。また、それはなぜですか。</p> <p>おばあちゃん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束していたし、おばあちゃんががっかりするといけないから。 ・おばあちゃんは、重い荷物を持っているから 	<p>・ゆう子さんと2人の関係を確認し、板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立場を決めて、根拠をもとに話し合わせる。(グループ→全体) ・自分の立場は、紙コップの色で表現させる。

18 おばあちゃんの指定席

六年 組 番 名前

め

あなたがゆう子だったら

おばあちゃんに 男の人に 席をゆずる。

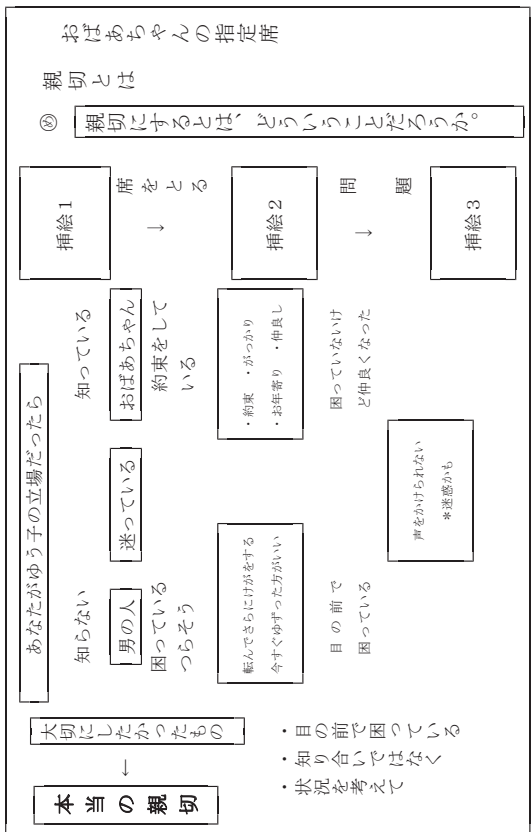
どちらか迷っている

ふり返り◎○△

- ① 自分の考えを伝えることができましたか。.....()
- ② 相手の考えをしっかりと聞くことができましたか。.....()
- ③ これからの自分について考えることができましたか。.....()

終	5 道徳的価値をもとに、自己を振り返る。 ◇今日の学習で学んだことをもとに、自分自身について振り返りましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをワークシートに記入させる。(補助発問) ・みなさんもゆう子さんのような親切をしたことはありますか。
末	5 わたしは今まで、友達が困っていたら親切にしたことはありますか、今日の学習で知らない人でもその場の状況で判断し助けられることが大切だと分かりました。これから声をかけていきたいです。	<ul style="list-style-type: none"> ・「今までの自分」「今日の学習での学び」「これからの自分」について振り返らせること、これからの自分の生き方と結びつけて考えさせる。
分	5 今日学習で少しレベルアップした親切があることが分かりました。これからは、友達に関わらず誰にでも親切にできる人になりたいです。	<p>評 相手の立場に立って行動するよさについて自分のこれまでの経験を思い出しながらか考えている。(ワークシート)</p>

(4) 板書計画



五所川原市立五所川原第一中学校



道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業 完了報告書

(五所川原市立五所川原第一中学校)

1 道徳教育に関する改善状況の概要

本校では、道徳の教科化、新学習指導要領の全面実施に向けて、道徳の時間の「量的確保」と「質的転換」を図るために、道徳科の授業の在り方や評価の仕方について校内研修を行ってきた。

今年度は、道徳教育の抜本的改善・充実に図るために、生徒の実態と教育目標の「夢を持ち、共に学ぶ心豊かな生徒」を受けて、校内研究において「豊かな心を持ち、人とのかかわりを大切にす
る生徒の育成～一人一人が自分自身の問題として捉え、多様な考えを認め合う道徳教育の実践を通
して～」を研究主題に掲げ、道徳教育の重点目標である「思いやり・感謝」と「遵法精神・公德心」
を身に付けた生徒の育成を目指すに当たり、次の3点を改善項目として挙げた。

- (1) 「考え、議論する道徳」の実践を通し、生徒が多面的・多角的に考えることができる指導方法の工夫
- (2) 各教科、学校行事を踏まえたカリキュラム・マネジメントと道徳教育の全体計画及び年間指導計画の改善と活用
- (3) 生徒の変容や記録を活用した評価の工夫

そして、以下のことを目標とし、方法について検討した。

研究目標 道徳科において豊かな心を育てるためには問題解決的な手法で生徒の多様な考えを引き出すことが有効であることを、実践を通して明らかにする。

研究方法 ・生徒に対して実態調査を行い、考えを深める場面と多様な考え方を認め合う表現活動の場面を設定することで生徒の変容を見取る。
・生徒自身が身近な問題として捉えることができる問題解決的な道徳の授業を実践するために内容・発問の工夫をする。
・道徳教育及び道徳の授業と各教科及び学校行事等に関連させ、深い学びに結び付ける。

その結果、次のような改善が見られた。

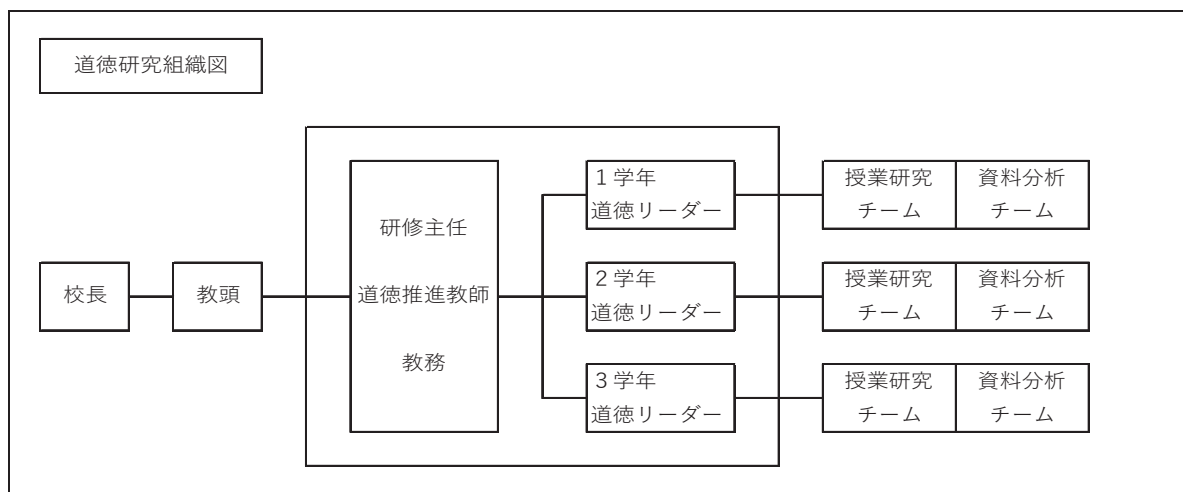
- (1) 「新学習指導要領」完全実施に伴い、道徳の年間指導計画に則った授業時数の確保のために、職員室に「道徳実施状況」を掲示し、学級担任以外も道徳の授業を実践することによって、学年全体で道徳科の授業づくりをする体制ができるようになった。また、「『考え、議論する道徳』とは」「問題解決的な手法で生徒の多様な考えを引き出す道徳科の授業づくりとは」など、研修会及び授業研究協議会で講師の先生方から指導・助言をいただいたことで、道徳教育における校内の共通理解が深まり、道徳科の授業づくりを見直すことや教員全員が道徳教育を推進することができた。
- (2) 本校生徒は、行事ではよりよい集団を作り上げようとする積極的な姿勢が見られるものの、毎日の授業に対しては受け身で、自分や自分に親しい人の「今が楽しければいい」という考えをもつ生徒も見受けられる。また、友人に対して配慮のない言動によるトラブルも多く、適切な人間関係を構築することができず、不登校になってしまうケースも見受けられる。さらに、深く物事を考えないままにきまりを破ってしまうということが課題であったが、「相手の気持

ちを考えて生活する」ことや「困っている人がいるとき、進んで助けている」ことなど、相手の立場を尊重して助け合う、他者への思いやりをもって生活するという意識の高まりが見られるようになってきた。

2 実施した研究内容

(1) 研究体制づくり

全教員を問題解決的な授業方法の研究を中心に行う「授業研究チーム」とアンケートの集計及び分析、資料作りを行う「資料分析チーム」の2つに分けた。各学年の道徳リーダーは年間指導計画の作成・見直しを行い、学級担任以外の授業実践の計画を立案するなどして、学年全体で足並みをそろえて授業を行うようにした。



(2) 全体計画・年間計画・別葉の作成・見直し

教科化2年目に当たり、昨年度の反省を踏まえ、全体計画と各学年の指導内容の配置の見直し、別葉の作成と見直しを行い、職員室内に掲示し、常に目に触れるようにした。

また、学級担任以外も道徳の授業を実践するため、年間指導計画に則った「道徳実施状況」を掲示し、学年全体で進捗状況を確認した。

《道徳実施状況》



(3) 研究の共通理解を図るための校内研修

① 五所川原市教育委員会 学校教育課指導係 指導主事 西口虎男氏による講話

「問題解決的な授業のあり方」と「考え、議論する表現活動の実践例」についてお話しいただき、道徳的な問題を生徒が主体的に考え議論する授業づくりのための「考え、議論する」や「問題解決的な学習」等の用語の共通理解を図った。また、発問の工夫の仕方、生徒の反応への切り返しの発問や補助発問の準備の必要性、書く活動における、ワークシートや道徳ノートの使い方や生徒の意見を取り入れた板書の工夫についての理解を深めることができた。

② 弘前大学教育学部長 福島裕敏氏による講話

(帯同：弘前大学教育学部附属中学校 佐々木篤史氏)

「道徳を教えるとは」、「道徳的諸価値を理解するとは」、「『考えて・議論する』道徳の必要性」についてお話しいただいた。道徳は、学校生活の中で子供たちが普段思っていることを伝えたり、話し合ったりして、また、自分が周りの人とどう関わって生きていくかを考える大切な時間である。人と人との間でどう生きていくか、自分はどうあるべきか、よりよく生きるための

道徳的な価値について生徒たちに考えて理解してもらうことが第一目標で、言葉だけではなく、自分の心の中を振り返り、思考、大事にしている価値と結び付けて内省することや考えたことを共有する時間としても大切であることを確認した。何となく分かっているようであっても、まだよく理解できていない道徳的価値について、授業でその価値の大切さに触れ、新たな道徳的概念を理解できるようになることが望ましいと言える。自分の考えを深めるためには、人に伝えることが大切であり、人に伝えるためにはよく考えなければならない。そのために問いを生徒たちに投げかけて、周囲と話し合わせることによって、様々な意見を共有したり、考えたりするような「考えて・議論する」場面の積み重ねが重要であることなど、多くの示唆をいただいた。

《校内研修の様子》



また、佐々木篤史先生の「二通の手紙」による模擬授業では、導入で「きまりを守るとは？」と道徳的課題を提示し、主人公の行動を「悪い、どちらかといえば悪い、悪くない、むしろいい」の4段階で判定し、その理由を交流させることによって心を揺さぶることや「きまりがよくない」という意見を取り上げて、「どんなきまりになったらいいのか?」「どんな思いをのせたきまりがいいのか?」と新しいきまりを創り上げることを考えさせるなど、授業での工夫すべきことを伺った。

③ 青森県総合学校教育センター 義務教育課 指導主事 松尾和明氏による講話

「考え、議論する」道徳の授業づくりでは、思考ツールを使って考えたり、互いの考えを共有したりすることが有効であるが、思考ツールを使って書くこと自体が目的ではなく、授業を通して自分の考えがどのように変容したのかを確認するために用いることが大切であることを学んだ。授業では、主発問を中心に展開すると授業を組み立てやすくなり、補助発問においては、生徒の言葉を取り上げて「揺さぶり」、「解釈」し、「再構成」することが効果的であること、また、「問い返し」発問や「切り返し」発問もあらかじめ想定しながら授業を進めることによって、生徒たちの思考を深めたり、広げたりすることができることを学んだ。さらに、ICT機器を活用することで、発言しにくかった生徒も意見を発信しやすくなり、特別支援学級の生徒も理解しやすくなるので効果的であることも確認できた。「ねらい」と「評価」の違いを明確にするためには、内容項目が「ねらい」となってはいけない。生徒たちの現状を踏まえて、どのような変容を期待して授業の展開を考えるなど、授業の「質的改善」についての理解を深めることができた。

(4) 小中連携の取組

本校では、これまで学区内の小学校と道徳科の授業づくりでの小中連携を行ってこなかった。

今年度は、学区内の五所川原市立南小学校の高学年の児童と共通の道徳性調査と道徳科アンケートを実施した。また、相互に研究授業を参観し、授業づくりにおける交流を行ってきた。

(5) 研究授業及び研究協議会の実施

本校では、授業改善に当たり、「生徒自身が身近な問題として捉え、多様な考えを引き出せる発問であったか」「互いの考えを認め合う表現活動の場面と、考えを深める場面が設定され、効果的に行われたか」を授業づくりの中心にして、3回検証授業を行った。

① 学年主任による研究授業(6月)

1学年「自分との付き合い方を考えよう」(A-(3)向上心、個性の伸長)を主題とし、教材「自分の性格が大嫌い!」(東京書籍)、2学年「誠意をもって」(A-(1)自主、自律、自由と責任)を主題とし、教材「金語楼さんのこと」(東京書籍)、3学年「より高い目標を目指して」(A-(4)希望と勇気、克己と強い意志)を主題とし、教材「高く遠い夢」(東京書籍)を用いて実施した。

研究協議会において、

- ・ねらいに迫るための中心発問の表現のあり方（資料分析的なものから、共感的なもの、投影的なもの、発展的な発問などのバリエーション）についてさらに工夫しなければならないこと。
- ・意見の共有を図るために思考の深め方や議論の方法によってツール等は変え、考えを認め合う実感を持たせられる場面を設定すること。
- ・生徒個々が主体的に考えるための手立てとして、意図的に指名したり対話場面を設定したりすること。

以上が本校の課題であることが確認できた。

② 学級担任による検証授業（7月）

1学年「安全な生活のために」（A-（2）節度、節制）を主題とし、教材「山に来る資格がない」（東京書籍）、2学年「いのちを考える」（D-（19）生命の尊さ）を主題とし、教材「奇跡の一週間」（東京書籍）、3学年「将来の自分を見つめて」（C-（13）勤労）を主題とし、教材「好きな仕事か安定かなやんでいる」（東京書籍）を用いて実施した。

研究協議会では、

- ・1学年では、役割演技後にどんな気持ちかを確認することが大事であること。
- ・2学年では心情円での意思表示は、互いの意見を深化させ、指名する教師にも有効であるが、書かせる場面に加えて対話や話し合いの時間設定が必要であること。
- ・3学年では発問にバリエーションや提案性もあって生徒たちが多面的・多角的に考えること、効果的な資料提示やモニターでのデータ表示、自分事として考える発問、多角的な視点で価値を考えられるなどの工夫が見られたこと

などの指導・助言をいただいた。

課題として、発問については、中心発問から構造的に授業を組み立てていくこと、意見の共有を図るための方法については、思考ツール等の手立てを用いて考えの可視化を図ること、個々が主体的に考えるための手立てとして、ファシリテーターとしての発言への切り返しや、意図的指名など、考えを深めさせるための仕掛けと考えを伝える表現活動の時間を確保することが挙げられた。

③ 道徳教育研究協議会における公開授業（10月28日実施）

10月28日小・中学校道徳教育研究協議会を開催した。本協議会では、参加した西北管内の中学校教員に対し、本校の道徳教育の取組を説明するとともに、新型コロナウイルス感染防止対策のため、参加者が本校生徒と接することがないように、授業はあらかじめ撮影しておいた動画を視聴していただき、授業の検証を行った。

1学年「その人が本当に望んでいること」（B-（9）相互理解、寛容）を主題とし、教材「その人が本当に望んでいること」（東京書籍）、2学年「よりよい社会のために」（C-（10）遵法精神、公德心）を主題とし、教材「宝塚方面行きー西宮北口駅」（東京書籍）、3学年「規則の意義とは」（C-（10）遵法精神、公德心）を主題とし、教材「二通の手紙」（東京書籍）を用いて実施した。

《公開授業の様子》



1 学年



2 学年



3 学年

各学年の研究協議会において、次のような意見や指導・助言をいただいた。

○1 学年

- ・導入の3つのシチュエーションと役割演技は身近な問題として捉えることができた。
- ・タブレットを使った心情円など、ICT機器を活用した授業でとても参考になった。
- ・心の数値が視覚化されていたし、役割演技をさせると生徒は動くので活発化したように思うが、深い学びなど目標達成に近づくためには、話し合う場面も必要だと感じた。

役割演技で大事なことは、特定の場面状況における役割を与えて登場人物になりきり、即興的に演じることで、その子なりの価値観が表れてくることにある。役割演技をしてみて気付いたことをグループの中で話し合いをすること、その役割演技を見ていた人がどう見えたか、観衆者がどう見たかの感想を伝え合うことである。その感想をシェアする場面がなかったことは課題であるとの指導・助言をいただいた。

《研究協議会の様子》



○2 学年

- ・登場人物だけでなく、周りの人というさまざまな視点で考えさせていた。
- ・投影的、批判的な発問を取り入れるともっと多面的・多角的な考えを引き出したのではないか。
- ・ワークシートを活用し、意図的に指名して発表させていた。

発問を引き締めるための補助発問が準備されていたところがよかった。公共の場でマナーを守ることが分かっているのに守れないのはなぜか。自分の弱い心にも共感させて、公德心を守っていくには何が大切か考えさせることで、考えを深めさせることができたのではないか。そのために、次の発問につながる、問題意識をもって学習に入るための導入を工夫、ICTを活用して、生徒の発言を引き出し、見極め、生徒同士の対話の時間確保、多様な意見の中にある共通部分に普遍的価値があること、そこにたどり着くための発問の構成の重要性などについての指導・助言をいただいた。

○3 学年

- ・観点を二つに分けて考えさせたところが効果的であった。
- ・妥当な処分について考える活動は体験的でよかったが、生徒たちにとっては難しかったのではないか。
- ・登場人物の心情に迫る発問も用意されていれば、違うアプローチができたのではないか。

生徒の意見に対して、理由や気持ちなどを教師が聞き返したり、対話することで自分の考えを整理したり深めたりすることができるので、ペアやグループで話し合わせるとき意見を出しやすくする雰囲気作りも大切であることなど、今後の研究の方向性について指導・助言をいただいた。

3 実施経過とその体制

月	取 組 の 内 容	備 考
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画及び年間指導計画の見直し ・校内研修（講師招聘） ・研究授業①（指導略案検討・協議会含む） ・生徒アンケートの実施・分析① ・検証授業①のための指導案検討会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事要請 ・学年主任3名による授業
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・県道徳教育推進協議会①（7/6） 研究計画の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師

7月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修（講師招聘による理論研修）の実施（7/7） （講話：弘前大学教育学部長 福島裕敏氏） ・検証授業①の実施 1年3組「山に登る資格がない」 2年1組「奇跡の一週間」 3年2組「好きな仕事か安定かなやんでいる」 （指導助言：西北教育事務所・五所川原市教育委員会） ・道徳性検査の実施① 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師招聘 ・学級担任3名による授業 ・指導主事要請
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校道徳研究協議会への参加（8/3） ・校内研修（講師招聘）の実施（8/24） （講話：県総合学校教育センター 松尾和明指導主事） 	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートによる研修
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業指導案検討会の実施 ・校内研修（公開授業に関して 9/15） 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校道徳教育研究協議会公開授業動画撮影（10/25） 1年2組「その人が本当に望んでいること」 2年3組「宝塚方面行きー西宮北口駅」 3年1組「二通の手紙」 ・中学校道徳教育研究協議会 公開授業（動画）及び研究協議会（10/28） （指導助言：弘前大学教育学部長 福島裕敏氏） （指導助言：西北教育事務所・五所川原市教育委員会） ・道徳研究協議アンケートの集計・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任3名による授業 ・助言者3名参加 ・講師招聘 ・指導主事要請
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修（取組状況の中間報告と確認） ・生徒アンケートの実施・分析② 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価（保護者アンケート）の実施 ・道徳性検査の実施② 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・県道徳教育推進協議会②（1/18） 結果報告 ・道徳教育パワーアップ協議会（1/28） 実践事例発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の報告 ・研究紀要の作成 	

4 取組の成果と課題

(1) 調査から見られる成果と課題

① 道徳の重点目標に関する項目についての道徳性検査にみる生徒の傾向

【検査名】 教研式 道徳性アセスメント HUMAN (図書文化社)

各学年ともに、10月28日小・中学校道徳教育研究協議会に授業公開した1学級を抽出し検査を行った。

1 学年

視点	内容項目	回答	児童・生徒の行動や道徳的価値観の傾向	回答の割合 (%)		
				全国	7月	11月
視点 B	思いやり・感謝	I	思いやりの心を持ち、多くの人の善意によって現在の生活があることに感謝し、それにこたえている。	56	52	52
		II	相手の立場を十分には考えられないが、親切にすることが多い。	32	41	45
		III	思いやりの心が不十分である。	8	3	2
		IV	思いやりの心が不十分で、相手の立場を考えず、親切さに欠ける。	4	3	2

2 学年

視点	内容項目	回答	児童・生徒の行動や道徳的価値観の傾向	回答の割合 (%)		
				全国	7月	11月
視点 B	思いやり・感謝	I	思いやりの心を持ち、多くの人の善意によって現在の生活があることに感謝し、それにこたえている。	51	59	55
		II	相手の立場を十分には考えられないが、親切にすることが多い。	36	38	38
		III	思いやりの心が不十分である。	9	3	3
		IV	思いやりの心が不十分で、相手の立場を考えず、親切さに欠ける。	4	0	5

3 学年

視点	内容項目	回答	児童・生徒の行動や道徳的価値観の傾向	回答の割合 (%)		
				全国	7月	11月
視点 B	思いやり・感謝	I	思いやりの心を持ち、多くの人の善意によって現在の生活があることに感謝し、それにこたえている。	51	51	36
		II	相手の立場を十分には考えられないが、親切にすることが多い。	37	37	46
		III	思いやりの心が不十分である。	9	8	14
		IV	思いやりの心が不十分で、相手の立場を考えず、親切さに欠ける。	3	4	4

1 学年

視点 点	内容 項目	回 答	児童・生徒の行動や道徳的価値観の傾向	回答の割合 (%)		
				全国	7 月	11 月
視点 点 C	遵法精神・公德心	I	きまりや規則の意義を十分理解し、進んでこれを守る。	39	47	30
		II	きまりや規則の意義を理解し、守ることが多い。	39	28	38
		III	きまりや規則を守っているが、その意義までは理解できていない。	16	14	21
		IV	きまりや規則を守る気持ちにかけ、規則を破ることが多い。	6	12	11

2 学年

視点 点	内容 項目	回 答	児童・生徒の行動や道徳的価値観の傾向	回答の割合 (%)		
				全国	7 月	11 月
視点 点 C	遵法精神・公德心	I	きまりや規則の意義を十分理解し、進んでこれを守る。	34	41	23
		II	きまりや規則の意義を理解し、守ることが多い。	34	23	36
		III	きまりや規則を守っているが、その意義までは理解できていない。	22	23	36
		IV	きまりや規則を守る気持ちにかけ、規則を破ることが多い。	10	11	5

3 学年

視点 点	内容 項目	回 答	児童・生徒の行動や道徳的価値観の傾向	回答の割合 (%)		
				全国	7 月	11 月
視点 点 C	遵法精神・公德心	I	きまりや規則の意義を十分理解し、進んでこれを守る。	31	21	17
		II	きまりや規則の意義を理解し、守ることが多い。	35	36	28
		III	きまりや規則を守っているが、その意義までは理解できていない。	25	37	42
		IV	きまりや規則を守る気持ちにかけ、規則を破ることが多い。	9	7	14

〔概況〕

「思いやり・感謝」について、7月と11月の回答の割合を比較すると、1・2学年では全国平均とほぼ同じであるが、3学年はIの割合が減り、IIとIIIの割合が増えている。

「遵法精神・公德心」について、7月と11月の回答の割合を比較すると、いずれの学年もIの割合が減っており、1・2学年はIIとIII、3学年はIII・IVの割合が増えており、全国平均よりも望ましくない傾向が強まるという結果になった。

このことから、「思いやり・感謝」と「遵法精神・公德心」を身に付けた生徒の育成は十分とはいえないという結果となった。

② 道徳の授業に対する生徒の傾向（11月実施）

【検査名】 教研式 道徳性アセスメント BEING（図書文化社）

各学年1学級抽出（① HUMANと同一学級）

項目	学年	%		よくある	ときどきある	あまりない
素直に発言している	1年	全国		35	41	24
		本校	7月	41	45	14
			11月	39	50	11
	2年	全国		34	42	24
		本校	7月	50	38	13
			11月	38	47	16
	3年	全国		38	40	22
		本校	7月	37	37	26
			11月	47	42	11

項目	学年	%		よくある	ときどきある	あまりない
深く考える 自分のことを振り返り	1年	全国		38	44	18
		本校	7月	59	38	3
			11月	36	50	14
	2年	全国		35	42	22
		本校	7月	66	16	19
			11月	50	38	13
	3年	全国		36	43	21
		本校	7月	55	32	13
			11月	47	42	11

〔概況〕

いずれの項目も、「よくある・ときどきある」の割合を合わせると7月、11月ともに全ての学年で全国平均を上回っており、道徳の時間では、自分の素直な考えを述べたり、自分のことを振り返って考えたりすることができていると思われる。しかし、「よくある」と答えた生徒の割合だけを比較すると、11月に大きく下回っており、道徳の授業において、素直に発言できなくなったり、自分のことを振り返り深く考えようとしなくなるなど、本校の課題が見て取れる。

③ 道徳意識調査と道徳性アンケートに見る全校生徒の傾向（6月と11月の比較）

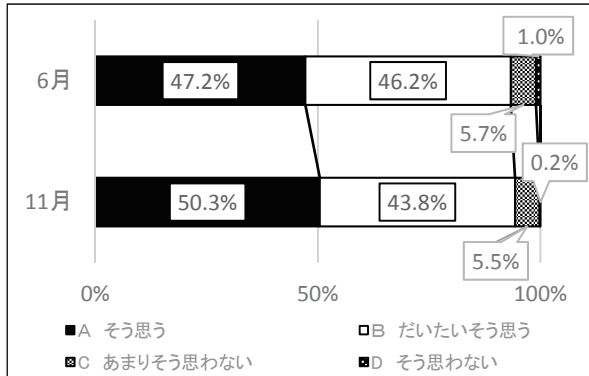
ア 【調査名】道徳意識調査（本校独自）

※ A そう思う B だいたいそう思う C あまりそう思わない D そう思わない

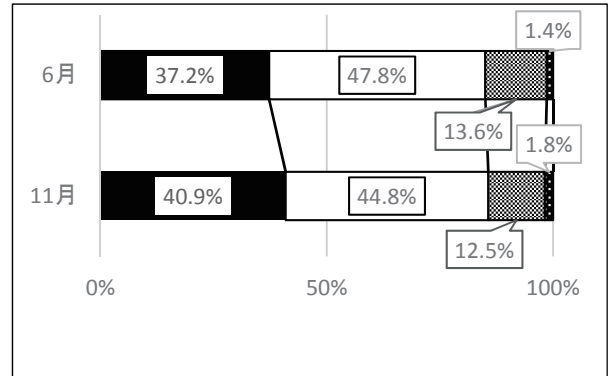
※「小数第2位四捨五入のため100%にならない」

○「思いやり・感謝」に関連する項目

相手の気持ちを考えて生活している

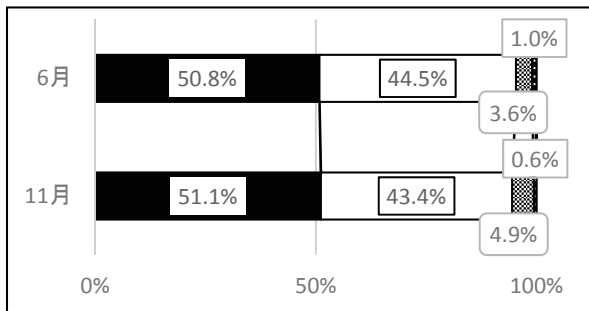


困っている人がいるとき、進んで助ける



○「遵法精神・公德心」に関連する項目

学校の決まりを守っている



〔概況〕

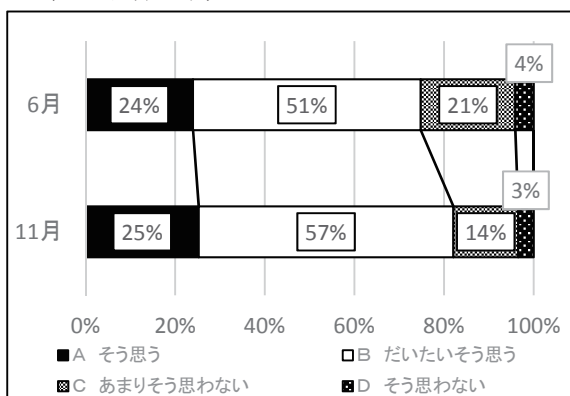
少数であるが、Aの値が増えており、他者への「思いやり・感謝」「遵法精神・公德心」の意識の高まりが見られる。

イ 【調査名】道徳性アンケート（本校独自）

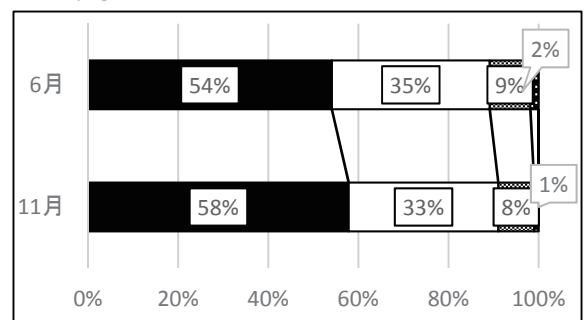
※ A そう思う B だいたいそう思う C あまりそう思わない D そう思わない

※「小数第2位四捨五入のため100%にならない」

道徳の授業が好きだ



道徳の授業で、友達の話聞いて「なるほど」と思ったり、自分の考えが変わったりしたことがある



〔概況〕

道徳の授業については、11月のAとBの値を合わせると「好きだ」と感じている生徒が8割を超え、6月よりも7%増えている。また、「道徳の授業で、友達の話聞いて『なるほど』」と思ったり、自分の考えが変わったりしたことがある生徒については、AとBの値を合わせると、6月11月とも約9割であり、発問が多様な考えを引き出し、意見交流により深い学びにつながっているものと思われる。

(2) 授業研究を通しての成果と課題

道徳教育の抜本的改善・充実を図るために、校内研究において「豊かな心を持ち、人とのかわりを大切に作る生徒の育成～一人一人が自分自身の問題として捉え、多様な考えを認め合う道徳教育の実践を通して～」を研究主題に掲げ、研究目標を「道徳科において豊かな心を育てるためには問題解決的な手法で生徒の多様な考えを引き出すことが有効であることを、実践を通して明らかにする」として授業研究を行ってきた。

その成果として挙げられるのは、問題解決的な道徳の授業において、道徳的価値に迫るための発問の大切さを全教員が理解できたということである。本校では発問について研究・整理し、実践してきた。発問する目的は、教材から道徳的価値について深く考えられるようにしたり、道徳的価値が人として生きる上で大切だということの意味付けしたりすることであり、複数の道徳的価値のどの価値を優先するのか、生徒にとって考える必然性のある発問とは何か、多様な考えを引き出すにはどのような補助発問を準備すればよいかなど、発問を吟味した授業づくりを推進することができた。

また、互いの考えを伝え、聞き合う場面を設定し、対話を重視し、自分の考えを深める「考え議論する道徳」を意識した授業づくりを実践できたという成果があった。例えば、教材の提示の仕方や書く活動、動作化や役割演技など表現活動の工夫、思考ツールやICTを活用するなど、授業展開で新しい試みを取り入れていこうとする意欲が高まった。

しかし、これら教師の取組が生徒の望ましい姿へと変容させるまでには至っていないことから、道徳性を高めるための各教科及び学校行事等を踏まえたカリキュラム・マネジメントの運用が十分でないことが課題であると考え。この課題を克服するために、次年度も授業研究を継続し、道徳の授業と各教科及び学校行事等に関連させ、全教育活動を通じて深い学びに結び付けるきめ細かな道徳教育の実践に努めていきたい。

(3) 取組の振り返り

道徳の授業、道徳教育を担うのは全教員であるという認識のもとに、体制づくりと各種計画の作成・見直しから取組をスタートした。

教員が抱えている道徳科の授業づくりの悩みを解消する取組を進める上で、「考え、議論する道徳」の授業づくりには発問が重要であることが挙げられた。そこで、研修会と授業実践の積み重ねを経て、身近で多様な考えを導き出すため発問のバリエーションを増やし、ねらいに迫るための繰り返しや補助発問の在り方について多くを学ぶことができた。また、学級担任以外の授業実践や学年教員の授業のローテーションなどの体制作りが定着し、教師の道徳教育への意識は高まったといえる。

しかし、各種検査やアンケートから見られるように、生徒の結果は思わしくなく、新型コロナウイルス感染症の影響もあったため、生徒が議論するための表現活動や授業公開などにも制約があった。

本事業への取組により、本校の道徳教育はようやくスタート地点に立ったと感じている。これからも引き続き研修と授業実践を積み重ねて道徳教育の改善・充実を継続していきたい。

第1学年 道徳科学習指導案

日 時：令和3年10月25日（月）
対 象：1年2組 計29名
指導者：教諭 福士 智也

- 1 主 題 名 本 当 の や さ し さ 学 習 指 導 要 領 特 別 の 教 科 道 徳 内 容 項 目 B〔相 互 理 解、寛 容〕
関 連 項 目 B〔思 い や り、感 謝〕
教 材 名 「そ の 人 が 本 当 に 望 ん で い る こ と」 （東 京 書 籍 新 し い 道 徳 1 p 8 6 ～ p 8 7）

- 2 ね ら い 教 材 の 場 面 を 役 割 演 技 す る こ と を 通 じ て、他 者 が 置 か れ た 状 況 や 立 場 を 理 解 し、相 互 理 解
を 図 る た め に 大 切 に す べ き こ と を 考 え、寛 容 の 心 を も っ て 他 者 と 接 し よ う と す る 意 欲 と 態
度 を 育 て る。

3 主 題 設 定 の 理 由

(1) ね ら い や 指 導 内 容 に つ い て

本 主 題 は、中 学 校 学 習 指 導 要 領 特 別 の 教 科 道 徳 の 内 容 「B 主 として 人 と の 関 わ り に 関 す る こ
と」に お け る 項 目 「相 互 理 解、寛 容」を 基 に 設 定 し た。「相 互 理 解、寛 容」に つ い て は、「自 分
の 考 え や 意 見 を 相 手 に 伝 え る と と も に、そ れ ぞ れ の 個 性 や 立 場 を 尊 重 し、い ろ ろ な も の の 見
方 や 考 え 方 が あ る こ と を 理 解 し、寛 容 の 心 を も っ て 謙 虚 に 他 に 学 び、自 ら を 高 め て い く こ と」
と 示 さ れ て い る。中 学 生 の 時 期 は、も の の 見 方 や 考 え 方 が 確 立 し て く る と と も に、自 分 の 考 え
や 立 場 に 固 執 す る 傾 向 が 強 くな る が ゆ え に、友 人 間 で の 意 見 の 対 立 や 摩 擦 が 生 じ る こ と も 少 な
く ない。人 に は そ れ ぞ れ 自 分 の も の の 見 方 や 考 え 方 が あ り、個 性 が あ る こ と から、互 い が 相 手
の 存 在 の 独 自 性 を 認 め、相 手 の 考 え や 立 場 を 尊 重 す る こ と が 大 切 で あ る。ま た、寛 容 の 心 を も
つ こ と で、人 を 許 し 受 け 入 れ と が め だ て し な い で、他 者 の よ い 面 を 積 極 的 に 認 め る こ と が で き
る。

さ ら に 本 主 題 は、「B〔思 い や り、感 謝〕」と い う 項 目 と も 関 連 し て い る。「思 い や り」と は、
他 者 と 接 す る と き に 必 要 な 心 の 在 り 方 で あ る。そ れ は 時 に は 黙 っ て 温 か く 見 守 る と い っ た 表 に
現 れ ない 場 合 も あ る。他 者 の 立 場 を 尊 重 し、支 え る 生 き 方 で あ る。そ の 心 の 根 底 に は、人 間 尊
重 の 精 神 に 基 づ く 人 間 に 対 す る 深 い 理 解 と 共 感 が な け れ ば な ら ない。

し か し、中 学 生 の 時 期 は、思 い や り や 感 謝 が 大 切 で あ る と い う こ と に つ い て 理 解 は し て い る
が、時 に 自 己 中 心 的 に な り や す く、他 を 省 み ない 行 動 に 走 る 場 合 が あ る。そ の た め、本 時 で は
「思 い や り」に は、人 間 尊 重 の 精 神 と 深 い 人 間 理 解 や 他 者 へ の 共 感 が 根 底 に あ る こ と を 気 付 か
せ る と と も に、そ れ ら に 進 ん で 応 え る こ と に よ っ て、よ り 強 い 自 他 の 絆 が 生 ま れ る こ と を 理 解
さ せ たい と 思 い、本 主 題 を 設 定 し た。

(2) 生 徒 の 実 態 に つ い て

本 学 級 で は、7 月 に 教 研 式 道 徳 教 育 ア セ ス メ ン ト 「B E I N G」と、「HUMAN」を 実 施 し
た。

ま ず、B E I N G の 調 査 結 果 に よ る と、本 学 級 で は、道 徳 性 を 支 え る 3 つ の 力（「共 感 す

力」振 り 返 る 力」「前 向 き に と ら え る 力」の う ち、「前 向 き に と ら え る 力」が、全 国 平 均 より も
や や 低 い 傾 向 が 見 ら れ た。こ の こ と から、「相 手 と 心 を 通 わ せ る こ と や、よ り よ く な る た め に い
か に 生 き る か を 考 え、自 分 を 見 つ め 直 す な どの 自 己 理 解 を 促 せ る と よ い」と の 結 果 で あ っ た。

ま た、道 徳 の 授 業 に ど の 程 度 生 徒 が 積 極 的 に 取 り 組 ん で い る か に つ い て、ほ と ん ど す べ て の 項
目 で 全 国 平 均 を 上 回 っ て い た が、「役 割 演 技 な ど を 通 じ て 気 持 ち を 考 え る」生 徒 は 6 9 %（全 国
平 均 7 0 %）と 全 国 平 均 を や や 下 回 る 結 果 と な っ た。さ ら に、学 級 の 風 土 に つ い て、全 国 平 均
に 比 べ「協 力 的 な 側 面」が 低 い 状 態 で あ る と い う 結 果 と な っ た。

次 に、HUMAN の 調 査 結 果 に よ る と、ほ と ん ど の 内 容 項 目 に お い て 全 国 平 均 並 み、も し く は
上 回 っ て い る が、「B〔相 互 理 解、寛 容〕」の 項 目 が 全 国 平 均 を 下 回 る 結 果 に な っ た。

本 学 級 の 生 徒 は、こ れ ま で の 授 業 や 学 校 生 活 に お い て、自 分 の 考 え や 意 見 を 相 手 に 伝 え る こ と
の 大 切 さ を 感 じ る と と も に、相 手 の 立 場 に 立 っ て そ の 考 え や 意 見 を 聴 く こ と で、真 の 相 互 理 解 が
可 能 に な る と い う こ と を 重 点 的 に 学 ん で き た。「お 互 い の 考 え を 認 め 合 う こ と や、寛 容 な 心 を も
っ て 他 者 を 尊 重 す る こ と が 大 切 で あ る」と い う 道 徳 的 価 値 に つ い て も あ る 程 度 は 理 解 し て い る も
の と 認 識 し て い る。

し か し、上 記 の 調 査 結 果 に 見 ら れ る よ う に、自 分 の 考 え に 固 執 し、他 者 の 立 場 や 考 え に 十 分 考
え を 巡 ら せ る こ と が で き ず、す れ 違 い が 生 じ る こ と も 多 い。ま た、深 く 考 え ず に 他 者 に 対 し て 肯
定 的 な 態 度 を と っ た り、悪 い 行 為 に 対 し て 見 て 見 ぬ ふ り を し た り す る こ と は、本 当 の 意 味 で の 寛
容 や 相 互 理 解 で は ない と い う こ と に ま で 考 え が 及 ば ない 生 徒 も い る。

そ こ で、こ れ か ら の 生 き 方 に つ い て、他 者 が 置 か れ た 状 況 や 立 場 を 理 解 し て、相 互 理 解 を 図 る
た め に 大 切 に す べ き こ と を 考 え、寛 容 の 心 を も っ て 他 者 と 接 し よ う と す る 意 欲 と 態 度 を 育 て たい。

(3) 教 材 に つ い て

本 教 材 は、学 校 生 活 の 具 体 的 な 場 面 を 想 定 し 役 割 演 技 を 行 う こ と に よ っ て、本 当 の や さ し さ の
あ る 言 動 に つ い て 考 え る こ と が で き る。ま た、相 互 理 解 だ け で は なく、「他 の 人 た だ 対 し 思 い や り
の 心 を も つ」と い う 思 い や り の 道 徳 的 価 値 も 含 ん で い る。本 教 材 を 通 じ て、本 当 の や さ し さ や 思
い や り と は 相 互 理 解 と 寛 容 さ の 上 に 成 り 立 つ こ と を 気 付 か せ る こ と が で き る も の と 捉 え て い る。

4 校 内 研 究 と の 関 わ り

本 校 の 研 究 目 標 は「道 徳 科 の 授 業 に お い て、問 題 解 決 的 な 手 法 で 生 徒 の 多 様 な 考 え を 引 き 出
す こ と が、心 豊 か な 人 間 性 や 社 会 性 を 養 う こ と に 有 効 で あ る こ と を、実 践 を 通 じ て 明 ら か に す
る」で あ る。ま た、研 究 仮 説 は「問 題 解 決 的 な 手 法 で、『一 人 一 人 が 自 分 自 身 の 問 題 と 捉 え 議 論
す る』道 徳 の 授 業 を 行 う こ と で 心 豊 か な 人 間 性 や 社 会 性 を 持 つ 生 徒 が 育 成 で き る」と し て い る。
そ こ で 本 時 で は、以 下 の 2 点 に つ い て 工 夫 し、提 案 し たい と 考 え る。

① 本 時 に お け る 問 題 解 決 的 な 手 法 に つ い て

「ど の よ う な 会 話 を す れ ば、自 分 の や さ し さ を 相 手 に 理 解 し も ら え る の か」「会 話 の 中 で、相 手
の や さ し さ を 感 じ た 時、そ れ を ど う 受 け 止 め、ど う 伝 え れ ば い い の か」と い う 発 問 を 設 定 し、「問
題 解 決 的 な 学 習」を 踏 ま え た 学 習 過 程 を 取 り 入 れ る こ と に よ っ て、「道 徳 的 価 値 の 理 解」に 留 ま ら
ず、実 生 活 に も 生 か せ る よ う な 道 徳 的 実 践 力 を 高 め る こ と が で き る の で は ない か と 考 え た。さ ら
に、「体 験 的 な 学 習」の 手 法 で は あ る が「役 割 演 技」を 用 い る こ と に よ り、本 時 の ね ら い が 達 成 せ

きるものと考えている。

- ② 本時における「一人一人が自分自身の問題と捉え議論する」場面の設定について導入から具体的な場面を3例提示することで、「他者理解」に重きを置くことを意識させるとともに、自分の経験を想起させながら学習を展開していく。また、Google formの集計結果や、心の数直線を用いることで、相手の考えを視覚的に捉えさせることによって、自分自身の考えを再考させながら議論させたい。

5 学習指導課程

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	留意点 評価 ★提案事項
導入 (10分)	1 課題意識をもたせる (2分)	◇指示・予想される生徒の反応 今日は、「本当のやさしさ」とは何か、みんな で考えてみましょう。 ・道徳ノートに主題を記入する。	
	2 価値を見通す (3分)	◇3つの場面から「本当のやさしさ」とは何か★③ を考えさせる。	
	発問1 次の3つの場面でのAさんの行動は、「本当のやさしさ」といえるだろうか。 シチュエーション① BさんとCさんがDさんの愚痴や悪口を言っています。それを目撃したAさんはD さんにそっと教えてあげました。 シチュエーション② ある日のイベントで、会場のトイレが混んでおり、5～6人の行列ができていまし た。そこに顔面蒼白で今にも泣きそうなBさんが走ってきました。行列の先頭にいた Aさんは自分の前にBさんを入れてあげました。 シチュエーション③ 教室のロッカーの中がいつも汚いBさん。いつも先生に叱られ、金曜日に片付けて います。ロッカーが隣のAさんは先生にお願ひされ、いつもBさんのロッカーの片付 けを手伝います。ある木曜日、Bさんのロッカーは相変わらずぐちゃぐちゃです。A さんはどうせ明日手放すならと思い、Bさんのロッカーを片付けてあげました。		
		◇あらかじめ入力したGoogle formの集計結果を共有する。(他クラスとの比較も含む) ・②③はやさしさではないと思う。 ・全部やさしさだと思う。 ・やさしさだとは思いますが、③は相手のためになら ない。 ◇大型モニターに映し出されるGoogle formの集計結果を確認する。 ・どうしてみんなこんなに違うんだろう。 ・自分と同じ人が多い。など	

3 価値をゆさぶる (5分)	◇人それぞれが感じる「やさしさ」の定義が異なることを確認し、その理由を周囲と意見交流させる。 ・周囲の生徒と意見交流する。 ・一人一人考えが違ふから当たり前。 ・相手のためになるかを考えているか。 ・自分が今まで受けたやさしさの感じる基準が違ふから。	◇教科書p86を開き、範読する。 発問2 あなただ、「番さん」や「クラスの他の友人」であれば、どのようなこととしてあげますか。 ◇道徳ノートに表を作らせ、そこに自分なりの行動を書かせる。 ・大丈夫と声をかける。 ・あえて何もしない。 ・関係のない話をしてみる。 ・一緒に遊ぶ。 ◇グループ内でお互いの考える「本当のやさしさ」を確認し合ったことを思い出させ、役割演技をさせる。 ・あいさつをし、役割を確認する。	【発言】 ・各シチュエーションごとに簡単に交流する。(5分程度)
4 価値に迫る (25分)		◇グループ内でお互いの考える「本当のやさしさ」を確認し合ったことを思い出させ、役割演技をさせる。 ・自分の考えたやさしさが伝わっているか、また、相手のやさしさをどのくらい受け止めたかを感じさせる。 ◇受け止めたやさしさ、伝わったであろうやさしさをタブレットで心の数直線に表す。 ・〇〇さんのやさしさを十分に感じ取れたから80%にしよう。 ・自分のやさしさがどうもうまく伝わっていないようだから30%くらいかな。 など ◇グループ内で「〇〇さんになって感じたこ	【記述】 ・(5分) 【演技・表情】 ★① ・自分の考えたやさしさが伝わっているか、また、相手のやさしさをどのくらい受け止めたかを感じさせる。 【心情円】 【発言】
展開 (35分)			

7 板書計画

モニター② 発問表示	課題「本当のやさしさ」について考える ○自分ならどうするか。 香さん クラスのほかの友達 ○シェアリングのメモ・印象的なワード ○振り返り	○私の考える「本当のやさしさ」 モニター① 主題表示 指示表示
---------------	--	--

〈使用資料〉

熊本市教育センター オリジナルデジタル教材「心の数直線」

<http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/kyouzai/web/Heart-meter3/index.html>

5 価値の深まりを 自覚する (10分)	◇考えたこと」をシェアリングさせる。 ・自分の感じたことを話す。 ◇上記の流れで、役割を変えて再度行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 発問 3 (中心発問) 「本当のやさしさ」とは一体何だと思えますか。 </div> ◇道徳ノートに記入させる。 ・自分の考えるやさしさだけでなく、相手のやさしさもしっかり受け止めること。 ・相手のことを考えること。 ・相手に伝わるようなやさしさのこと。	・グループ内でタブレットを見せ合いながらシェアリングさせる。 ・12分で、慌てずに可能な分だけローテーションする。 評①【記述】 ・役割演技やシェアリングを想起させ、十分な時間をとる。(5分程度) 評①【発言】 ・拳で行い、出なかつたら指名で発表してもらう。
6 価値を振り返る (5分)	◇導入からの自己の考えの変遷を確認しながら、道徳ノートに本時の振り返りを記入するよう伝える。 ・道徳ノートに振り返りを記入する。	評④【記述】

6 評価の視点

評①では、「道徳的諸価値について考える」という視点で、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりしているかを評価する。**評②**では、「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」という視点で、道徳的問題を、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的に考えているかを評価する。**評③**では、「自己を見つめる」という視点で、価値理解を基に、これまでの自分を振り返っているかを評価する。**評④**では、「人間としての生き方についての考えを深める」という視点で、学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしているかを評価する。

第2学年 道徳科学学習指導案

日 時：令和3年10月25日（月）

対 象：2年3組 計34名

指導者：教諭 中澤 亮

1 主題名 よりよい社会のために

学習指導要領 特別の教科 道徳 内容項目C〔遵法精神、公德心〕

教材名 「宝塚方面行きー西宮北口駅」（東京書籍 新しい道徳2 p 76～p 78）

2 ねらい 電車内のミサとおじいさんのやりとりを通して、公共の場での適切な言動を考え、公德心をもって行動しようとする態度を育てる。

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

学習指導要領では「C主として集団や社会との関わりに関すること」の内容項目「遵法精神・公德心」について、「法やきまの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」としている。

私たちは多くの人間が集まる社会の中で生活しており、時に利益がぶつかり合い集団のまとまりがなくなることがある。その際に、集団に秩序や規律を与え、それを守ることで自分たちの生活が安定して過ごすことができていることを理解することが大切である。遵法精神は、公德心によって支えられている。公德心とは、社会生活をする上での道徳を守ろうとする心であり、だれもが住みよい社会を実現するためには、社会の一員であるという自覚や、他者への配慮や思いやりを大切にすることをもち、互いの権利を尊重し、義務を果たすことが必要である。本時では、自分を見つめ考えることによって、よりよい社会を実現していこうとする態度を養わせたい。

この学習を通して、ミサの行動から、自分自身が公共の場で適切な行動をとっているかどうかを振り返り、社会の一員としてどうあればよいかについて考えさせたい。また、法やきまについて自ら守ることで自他にとって安定した社会につながるという自律的な捉え方を理解させたい。

そして、みんなが安心して生活できる社会をつくるために公德心をもって法やきまを守ることや社会生活上のマナーの必要性について理解を深めさせ、それらを尊重しようとする態度を養わせたい。

さらに、自他の権利を尊重し、自らに課せられた義務を果たすことによつて、公德心をもち理性的な人間としての生き方ができるということを気付かせたい。

(2) 生徒の実態について

本学級では、7月に教研式道徳教育アセスメント「BEING」と「HUMAN」を実施した。まず、BEINGの調査結果によると、本学級では、道徳性を支える3つの力（「共感する力」「振り返る力」「前向きにとらえる力」のうち、「共感する力」が全国平均よりもやや低い

傾向にあった。また、道徳の授業に関しては、ほとんどすべての項目で全国平均を上回っていたが、「問題を解決する」の項目が84%（全国平均87%）と全国平均をやや下回る結果となった。しかし、全体的に問題場面における気持ちと行動のパラランスが取れており、望ましいという結果が得られた。

次に、HUMANの調査結果によると、ほとんどの内容項目において全国平均並み、もしくは上回っているが、「A（1）自主、自律、自由と責任」と「D（22）よりよく生きる喜び」の2つの内容項目が全国平均をやや下回る結果になった。

以上の結果を踏まえ、これまでの授業や学校生活の様々な場面において、相手と心を通わせることや、よりよくなるために自分を見つめ直すことの大切さについて指導してきた。

本学級の生徒は、道徳意識調査の結果では「学校のきまを守っているか」という質問に対して、ほとんどの生徒が守ろうとすると回答しており、規範意識の高さがうかがえた。しかし、日常生活の言動からは、法やきまについての意義を十分に理解しているとは言えず、きまを守れない級友に対して、注意を促すこともなかなかできない。

本時の授業においては、「私」を大切にすることを「公」を大切にすることを考え、公共の場での適切な行動について考えを深め、公の中での自分の在り方について気付かせたい。法やきまの意義を他律的ではなく自律的に理解させ、自他の生活や権利を守り、遵守することの大切さについて自覚をもち、公德心をもって生活することで、よりよい社会生活につながることに理解を深め、一人一人が日常の生活において実践できるように意識させたい。

(3) 教材について

ミサはマユミといっしょに電車通学をしている。行きは座れないことが多いが、帰りはどちらかが清掃当番以外のときは二人で座れることがある。そこで、いつもいっしょに座れるように考えたのが、清掃当番ではないほうが先に駅に行き、鞆を置いて席を取っておくことである。ある日ミサが先に行って席を取っていると、目の前に立ったおじいさんにいきなり大きな声で怒鳴られる。周囲の人は、白い目で見ている。そこへマユミがやってきたので、あわてて席を立ち、逃げるように電車を飛び降りたという内容になっている。本教材は、電車内の座席についてミサとおじいさんのやりとりを通して、公共の場での適切な言動を考え、公德心をもって行動しようとする態度を養うことができるものであると捉えている。

清掃当番をしている友だちのために、電車の座席を鞆でとっていたミサと、厳しい態度で叱責するおじいさんとの二人のやりとりにおける、相互の心境を推察しながら、行動の在り方を考えていくことができる教材である。また、ミサ自身の価値観と周囲の価値観の違いに気付かせることで、公共の場での行動やマナーについて振り返りながら考えることができるものと考える。

指導に当たっては、双方の主張を多面的・多角的に捉えながら、公共の場での適切な言動について考えを深めさせていきたい。そのために、個人での考えを明確にした中で、グループ活動を活発化させながら、個人の考えを揺さぶっていく。生徒同士の対話を実践していくことで、相手に自己の考えの理由を伝えるとともに、質問を受けることによつて、より考えを深めさせたい。

4 校内研究との関わり

研究主題「豊かな心を持ち、人とのかわわりを大切にする生徒の育成

～一人一人が自分自身の問題として捉え、多様な考えを認め合う道徳教育の実践を通して～」

① 多様な立場や条件について考えさせる発問の工夫

教材中の登場人物の行為や理由を捉えさせ、様々な立場や条件から考えさせる発問によって、多面的・多角的な見方や考え方をさせていく。教材中の一場面において、表面的にしか見えない部分を捉えさせるのではなく、周囲の状況や人物の心情を意識させることによつて、これまで気付かなかった見方や考え方に触れさせたい。そうした展開から今後の実生活の場面において、学習した内容を生かせるように自分のこととして捉えさせていく。また、価値について問う発問では、十分な時間を確保しながら価値を深められるようにしていく。

② 生徒主体の活動を取り入れ、多くの考えを交流させる展開の工夫

生徒一人一人の考えをより効果的に交流させていくために、生徒同士で話し合う時間を十分に取入れ、議論する授業を展開したい。本時の授業においては、自分の考えを書かせた後、グループで各々の考えを交流させ、多面的・多角的に考えさせていきたい。

5 学習指導課程

段階 (時 間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応 ◇指示・予想される生徒の反応	留意点 評価 ★提案事項
導入 (5分)	1 「公共」という言葉について考える 2 課題意識を持たせる	◇「公共」という言葉から連想するものを挙げさせる。 ・みんなでするもの ・学校、病院、公園、デパート など 今日は、「公共」ということから、よりよい社会をつくるためにどうするかを考えよう。	
展開 (35分)	3 教材の範読 4 登場人物の行動の問題点、心の動きについて考える	「宝塚方面行き一西宮北口駅」を読む。 発問1 おじいさんとミサの行動についてどう思いますか。 ◇それぞれの行為に対する自分の考えをワークシートに書かせ、発表させる。 <おじいさん> ・周囲の人の気持ちを代わりに述べている。 ・勇気がある行動。	・PCを使用 ★①立場が異なる人物の行動やそれに至った心情を考えさせる。

<ul style="list-style-type: none"> ・言い過ぎだ。 ・注意するのはいいが、言い方に問題がある。 ・大声で迷惑な行為だ。 <p><ミサ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分勝手な行為だ。 ・周囲に対して迷惑な行為だ。 ・言い訳をして謝ろうとしない。 ・友だち思いである。 ・周りから白い目で見られてかわいそう。 <p>(補助発問)</p> <p>このとき、周りの人はどう思っていたのだろう。また、だれの行動に一番問題があるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんよくやった。 ・おじいさんの声が大きいのでも迷惑だ。 ・そんなにきつく言うのはひどい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ミサ ・マユミ 	<p>②②自分自身の生活を結び付けて考えさせる。</p> <p>★②自分自身の生活を結び付けて考えさせる。</p>
<p>発問2 (中心発問)</p> <p>このようなことになってしまったミサに足りなかったのはどんなことだろう。</p> <p>◇自分の考えをワークシートに書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がしたことが他の人たちにどういう思いをさせるかを考えていなかった。 ・席を取っておくことは悪いということに気が付いていなかった。 ・言い訳をして、素直に謝らなかった。 ・公共の場という意識がなかった。 	<p>ワークシート・発言</p>
<p>5 公共の場での配慮について考える</p>	<p>発問3</p> <p>公共の場で、みんなが気持ちよく過ごすために大切なことは何だろう。</p> <p>◇次の場所について、班で考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の公園 ○ファミリーレストラン ○スーパードッグなどのお店 ○休憩時間の教室


<p>終末 (10分)</p>	<p>5 本時のまとめと 振り返りをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の状況をよく見る。 ・大きな声で会話しない。 ・自分の価値基準で判断しない。 ・相手のことを思いやる。 ・自己中心的にならない。 <p>(補助発問)</p> <p>なぜそのような行動や配慮が必要なのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが使う場所だから、自分だけではなく、みんなが気持ちよくなる方がいい。 ・周囲に対して気遣いができた方がいい。 	<p>発言</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ◇今日の学習を振り返り、学んだことや考えたことをワークシートに書かせる。 ・周囲の迷惑を考えていくことの大切さについて知った。 ・公共の場では、周りの人のことを考えて、マナーを守って生活していかなければいけない。 ・自分の都合ばかり主張せず、相手のことも考えていくことが大事だと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書いた内容を数人に発表してもらおう。

6 評価の視点


主人公や友だちの意見を知ることを通して、自分を振り返って「公德心をもった行動」についての考えを深めている。

7 板書計画


・モニター画面を使用し、発問を提示する。




問1① おじいさんの行動についてどう思いますか？




問1② ミサの行動についてどう思いますか？




周りの人はどう思っているのだろう・・・



問2 どのようにならなってしまうミサに、たりなかつたのはどんなことだろう…？




みんなが使う場所だから、自分だけではなく、みんなが気持ちよくなる方がいい。




みんなが使う場所だから、自分だけではなく、みんなが気持ちよくなる方がいい。


よりよい社会のために
宝塚方面行きー西宮北口駅



- ・周囲の人の気持ちを代わり考えてみる。
- ・勇気がある行動。
- ・言えなかった。
- ・大で迷惑な行為だ。



- ・他の人などどう思うかを考える。
- ・女の席で座る。
- ・ことは悪いということに気がついていなかった。



- ・自分勝手な考え。
- ・周囲に対して迷惑な行為だ。
- ・交差しすぎる。
- ・前が見えなくてかわいそう。

各級の
発表用紙

各級の
発表用紙

各級の
発表用紙

各級の
発表用紙

第3学年 道徳科学習指導案

日 時：令和3年10月25日（月）
 対 象：3年1組37名・はるにれ学級1名 計38名
 指導者：教諭 錦山 以智朗

1 主題名 規則の意義とは 学習指導要領 道徳 内容項目C〔遵法精神、公德心〕
 教材名 「二通の手紙」（東京書籍 新しい道徳3 p175～p179）

2 ねらい 法やきまりの意義について考え、理解し、社会の秩序と規律を高めていこうとする意欲を育てる。

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について
 本主題は、「主として集団や社会との関わりに関すること」のうち「遵法精神、公德心」に関する内容である。具体的には、学習指導要領解説特別の教科道徳において「法やきまりの意義を理解し、それらを守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」と示されている。

中学3年生にもなると世の中には多くの法やきまりが存在することを分かっているが、場合によっては自分本位または自己の集団本位の判断になりがちである。明るく住みよい社会の実現のために、法やきまりの意義を深く考えることによって、積極的に法やきまりを遵守し、社会の一員としてよりよく生きていこうとする意欲を育成したい。

(2) 生徒の実態について

7月に教研式道徳教育アセスメント「BEING」と「HUMAN」を行った。まずBEINGの結果によると、本学級は「共感する力」「振り返る力」「振り返る力」はおおよそ全国的な傾向と同じで、自律的な学級風土が備わっていることがうかがえる。しかし、問題場面においては望ましい気持ちに伴わず、行動も起こしにくい傾向にある生徒が多い。次にHUMANの結果によると、本学級は道徳性における回答、心情・判断における回答で全国の回答とほぼ同じ傾向である。内容項目別に見てみると、「公正公平社会正義」「家族愛、家庭生活」「学校生活集団生活」の3項目が特に上回り、「遵法精神、公德心」「社会参画公共精神」「よりよく生きる」の3項目が全国の傾向より下回る傾向にあるという結果が出ている。

本学級は全体的にはルールやマナーについて大きく逸脱することがない学級である。何かあったときには注意や声かけを行う生徒もいることから、一定の規範意識や道徳的な心情・判断、協力し合う気持ちなどは備わっていると捉えられる。しかし一人一人について見てみると、知識や常識としては分かっているが、一人一人として正しい行動を貫くことができないう生徒も多く、人間としての弱さを感じる場面も多い。本時の教材は、まさに本学級の課題である「遵法精神、公德心」について深く考えることができる教材である。本時の授業を通して「分かっている」だけではなく「実際に行動できる」人間につながるよう、内面的資質を養いたい。

(3) 教材について

動物園の入園係である元さんは、規則を破ることにになると分かっていながら、幼い姉弟の境遇に同情し、入園を許可する。ところが閉園時間を過ぎて2人が動物園から出てこないため、職員総出で捜索が行われた。無事に姉弟は見つかり、後日2人の母親から感謝の手紙が届く。しかし喜びも束の間、会社からは規則を破ったことに対する処分の通知が届く。感謝の手紙と処分の通知、二通の手紙を見て元さんは職を辞することを決意する。

情け深く人間味あふれる元さんの行動は、心情的には十分理解できるものの、そのために多くの人に迷惑をかけてしまう。元さんの思いやりの行動にふれつつも、規則がなぜあるのか、規則によって何が守られているのかということについての理解を深め、きまりを大切にして生活しようとする心情を高めることにつなげたい。

4 校内研究との関わり

本校の研究主題は「豊かな心を持ち、人とかかわりを大切にする生徒の育成 ～一人一人が自分自身の問題と捉え、多様な考えを認め合う道徳教育の実践を通して～」としており、「問題解決的な手法で、『一人一人が自分自身の問題と捉え議論する』道徳の授業を行うことで心豊かな人間性や社会性を持つ生徒が育成できる」という仮説のもとに取り組んでいる。このことを踏まえて、本時では以下のような手立てを用いる。

(1) 2つの「問題」について考える

本時の教材を読んだ人の心に引っかけられる代表的なものに「元さんの処分が重い」というのがあるだろう。また、そもそも動物園の規則（16時以降入園できない、小学生以下は保護者同伴）が進えばこの物語のような複雑な事態にはなっておらず、「なぜこのような規則になっているのか」も考えたい。この2つの問題を通して、ルールの妥当性と懲戒処分の妥当性について考えるとともに、他者の意見にも触れることで規則やきまりの意義について理解を深めたい。

(2) 例外規定について考える

上記の2つの問題について建設的に考えられれば、規則やきまりの例外規定についても考えることができるかと予想される。規則やきまりを確実に守ることは確かに大切だが、それだけが全てではない。どのような場合に例外を認めてもいいのかを考えることで、さらに理解を深めたい。

5 学習指導課程

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応 ◇指示 ・予想される生徒の反応	留意点 評価 ★提案事項
導入 (10分)	1 本時の内容の確認	発問1 「ルールはなぜあるのか？何のために必要なのか？」 ・安全のため。 ・人に迷惑をかけるのを防ぐため。 ・集団で生きていく中で必要だから。	
	2 教材の範読		・場面の説明を入れながら範読する。

展開 (85分)	3 感想を聞く	<p>「この物語を読んでどう思いますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元さんは悪くない、かわいそう。 ・子どもにとってはよかった。 ・元さんはやめなくてもいい。 ・元さんは停職処分じゃなくいいと思う。 ・問題にならないやいやり方があったと思う。 	<p>・最終的に元さんへの同情や、雇い主への批判がメインにならないようにする。</p>
	4 2つの問題について考える	<p>発問2 (中心発問) 「①そもそもなぜこのようなルールがあるのか? ②ちょうどいい処分とはどのくらいだろうか?」</p> <p>◇どちらも個人で考え、用紙に書き、黒板(ホワイトボード)に貼る。</p>	<p>★①発問内容について考えることで、ルールの妥当性と処分の妥当性について考える。</p> <p>評 ワークシート</p>
	5 例外について考える	<p>①は「子どもの幸福」と「動物園の幸福」という2つの観点から考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい子供だけだと危険。 ・何かあったときに親もいると安心。 ・誘拐されるかもしれない。 ・閉園ギリギリに来られても困る。 ・お客さんに余裕をもって見てもらえる。 ・17時にスムーズに閉園できる。 <p>②で処分の感覚に触れさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意するくらいでいい。 ・3日の停職。 ・1週間の停職。 ・給料を1ヶ月だけ減らす。 	<p>★②例外規定について考え、話し合うことで、規則や決まりについて多面的に考え、理解を深める。</p> <p>評 話し合い活動、ワークシート</p>

終末 (5分)	6 振り返りとまとめ	<p>◇感想と自己評価を記入する。 机間巡視をして、数名に発表してもらおう。</p>	<p>「例外を認められないもの、絶対に守らなければいけないものもある」</p>	<p>・「きままりを守らなくてもいい場合がある」と思わないように、話の方向に気を付ける。</p>
------------	------------	--	---	--

6 評価の視点

発問内容についてよく考え、意見交換をしながら規則やきままりについての理解を深めている。

7 板書計画

<p>動物園の幸福</p> <p>問題(ギリギリ)だと余裕をもって見てもらえる</p> <p>スムーズに閉園できる</p> <p>意見の札を貼る</p>	<p>子どもの幸福</p> <p>子供だけだと危険</p> <p>誘拐されるかも……</p> <p>意見の札を貼る</p>	<p>例外が認められる場合は?</p> <p>思いやりの行動だったら認める</p> <p>不幸になる人がいないけれどいい</p>	<p>妥当な処分は?</p> <p>注意だけでいい</p> <p>3日の停職</p> <p>1週間の停職</p> <p>給料1ヶ月減らす</p> <p>意見の札を貼る</p>
--	---	---	---

2021年 月 日

組 番 氏名

1

・子どもにとっての幸福は？



Four horizontal dashed lines for writing answers to the question about children's happiness.

2

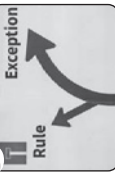
・動物園にとっての幸福は？



Four horizontal dashed lines for writing answers to the question about a zoo's happiness.



3



☆感想

Four horizontal dashed lines for writing a reflection or感想.

☆A B C D 自己評価

- 1 物語について興味をもちながら読めたか A B C D
 - 2 自分の考えを友達に伝えることができたか A B C D
 - 3 友達の考えをまじめに聞いたか、理解しようとしたか A B C D
 - 4 授業の内容について深く考えることができたか A B C D
- (A: 意欲的にできた B: できた C: あまりできなかった D: できなかった)

【参考資料】 道徳の授業における発問について

発問の目的は、教材から道徳的価値について深く考えられるようにしたり、道徳的価値が人として生きる上で大切だということを意味付けしたりすることであり、本校では発問について以下のように整理し、実践することとした。

	道徳的価値への導入→自我関与の道すじ	教材への導入
導入	<p>本時のテーマに関わる問題意識を持たせる導入</p> <p>例：生活の中できまりがあってよかったと感じるのはどんなときですか。</p>	<p>教材の内容に興味や関心をもたせる導入</p> <p>教材に関連する映像などを提示して</p> <p>「～について知っていますか」</p> <p>「～した経験はありますか」</p>
展開Ⅰ 教材を中心として考えさせる発問	<p>①教材中の状況把握や心情把握を補う場面発問【教材の確認・補充】</p> <p>「その後、どうなりましたか。何が起こったのですか」</p> <p>「なぜそうなったのですか」</p> <p>「～のとき、〇〇はどんな気持ちでしたか」「どんなことを考えたのでしょうか」</p> <p>「〇〇は、何と何で迷っているのでしょうか」</p> <p>「〇〇について、前と後ではどう違いますか」</p> <p>②問題場面における人物の考えや行動に対してその根拠や意味などを問う発問【分析】</p> <p>「なぜ〇〇はそのように行動したのでしょうか」</p> <p>「〇〇の行為にはどんな意味があるのでしょうか」</p>	
	<p>③問題場面における人物の考えや行動を客観的に見て、自分の考えを明らかにする発問【共感・批判】</p> <p>「主人公の行動や考え方について、どう思いますか」</p> <p>「主人公と同じような気持ちになったことはありますか」</p> <p>「〇〇は本当にそのようにしてよかったのでしょうか」</p> <p>「〇〇の考えに賛成ですか、反対ですか、その理由はなんですか」</p>	
展開Ⅱ 自己を見つめる	<p>④登場人物への自我関与を促しながら自分の気持ちや考えを明らかにする発問【投影・発展】</p> <p>「もし自分が〇〇だったらどうしますか、どのように考えますか」</p> <p>「もし自分が〇〇だったら、どうしなければならないと思いますか」</p> <p>「なぜそのように行動するのでしょうか」</p> <p>⑤生徒から出た意見を共有させ、討論につなげる発問【拡散】</p> <p>「～や～という意見がでしたが、どれが大事なのでしょう」</p> <p>「～や～という意見がでしたが、～についてはどう思いますか」</p> <p>⑥本時のテーマそのものを問う発問【テーマ】</p> <p>「～で大切なことはどんなことですか」</p> <p>「よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう」</p> <p>ここで活動と組み合わせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小グループでの話し合い、学級全体での討論、役割演技など 	

補助発問（ゆさぶり）

- A 出てきた意見に対して問いかけ、深める【深化】
「それはどういうことですか」「なぜですか」

- B 生徒の意見に対する意思を強化させる【強化】
「本当にそう思いますか」「もし～だとしてもそうしますか」
「いつ、どこで、誰に対してもそうできますか」

- C 一定の意見に固定してしまったときに視点をを変える【転換】
「もし～だとしたらどうなるでしょう」「～と考えたらどうなるでしょう」

- D 生徒の規定概念に対して、対立や矛盾を生み出す【否定】
「それは本当に正しい行為でしょうか」
「自分がそのようにされてもよいですか」
例：「～することが本当の思いやりと言えるのではないのでしょうか」

終末

- 「授業の最初と比べて、今は～についてどう思いますか」
- 「あなたにとって～とはどんなことですか」
- 「これから～についてどうしていきたいですか」
- 「～は、なぜ大切なのでしょう」
- 「本当の～とは何でしょう」

※参考文献・引用：「中学校における『考え、議論する』道徳科授業の在り方に関する研究」

（岩手県立総合教育センターHP）

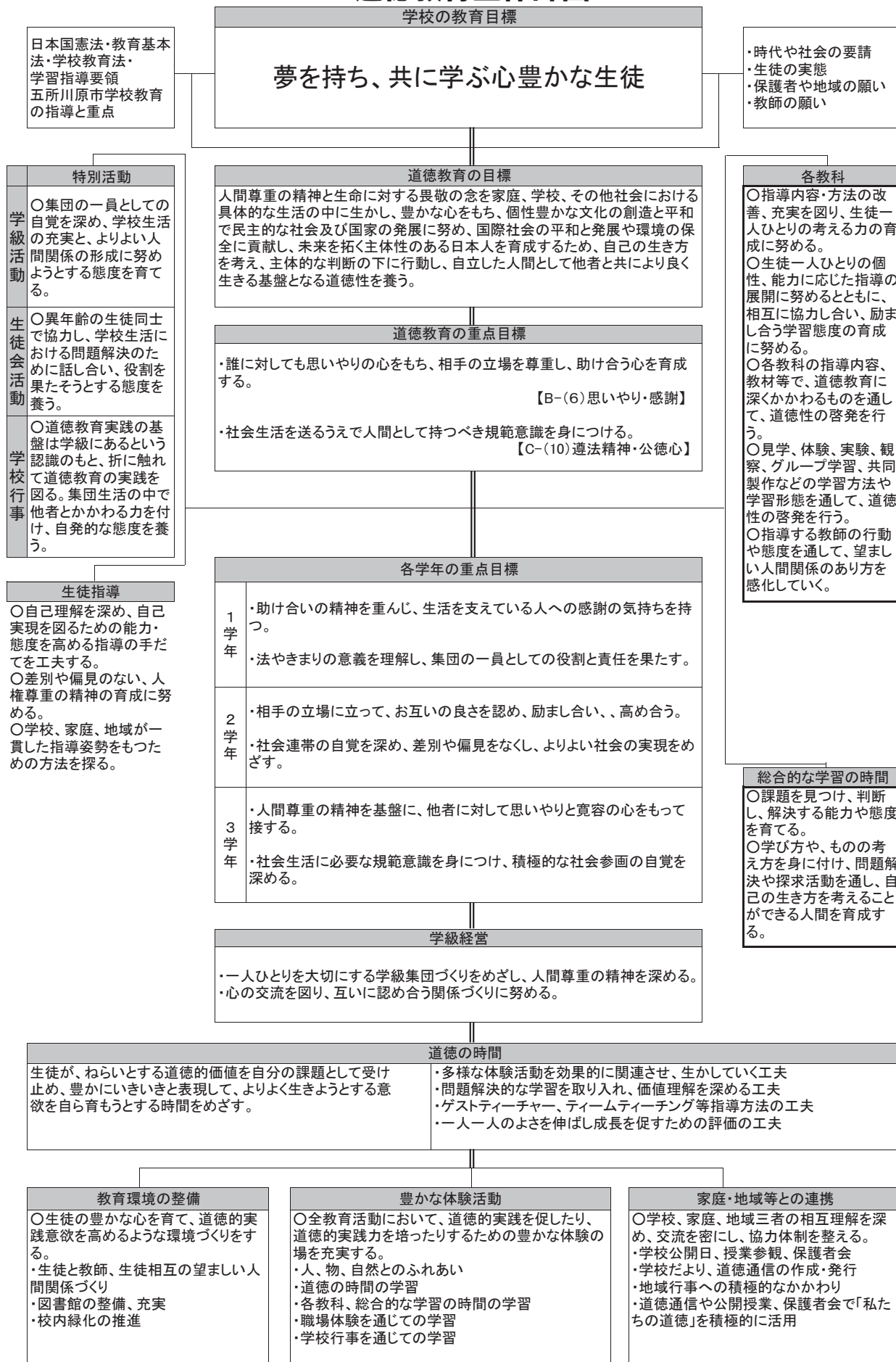
「訓育的教授の理論」（明治図書 吉本均著）

「中学校 全時間の授業展開で見せる『考え、議論する道徳』」

山中伸之編集代表（学事出版）

「道徳教育」2019年6月号,10月号（明治図書）

道徳教育全体計画



教育目標

夢を持ち、共に学ぶ心豊かな生徒(令和3年度)

教育目標

努力目標

・ 誠実で思いやりのある生徒

・ 健康で忍耐力のある生徒

学校行事	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
知能検査、標準学力検査	新入生説明会	新入生説明会	卒業証書授与式	卒業証書授与式	卒業証書授与式	卒業証書授与式	卒業証書授与式	卒業証書授与式	卒業証書授与式	卒業証書授与式	卒業証書授与式	卒業証書授与式
身体測定	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式	入学式
朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会	朝礼日、PTA総会
	1 新学期の「おはようごさいます」(7)礼儀	4-1 いじめに当たるのはどれだろう？(9)相互理解、寛容	5-1 山に来る資格がないA(2)節度、節制	5-2 もし、あ、のふらさよA(10)節度	5-3 傍聴者でないのかとどれるのならばA(2)節度、節制	A(1)自主、自決、自由と責任	A(3)向上心、個性の伸長	4-3 3.たつの心	1 動物の「おはようごさいます」(7)礼儀	2 学年に選ばれてC(10)法律精神、公德心	3 自分の性格が大嫌い！	A(3)向上心、個性の伸長
	1 動物の「おはようごさいます」(7)礼儀	2 学年に選ばれてC(10)法律精神、公德心	3 自分の性格が大嫌い！	A(3)向上心、個性の伸長								
道徳	1 動物の「おはようごさいます」(7)礼儀	2 学年に選ばれてC(10)法律精神、公德心	3 自分の性格が大嫌い！	A(3)向上心、個性の伸長								
国語	読む一冊	読む一冊	読む一冊	読む一冊	読む一冊	読む一冊	読む一冊	読む一冊	読む一冊	読む一冊	読む一冊	読む一冊
書写	書く一冊	書く一冊	書く一冊	書く一冊	書く一冊	書く一冊	書く一冊	書く一冊	書く一冊	書く一冊	書く一冊	書く一冊
社会	知る一冊	知る一冊	知る一冊	知る一冊	知る一冊	知る一冊	知る一冊	知る一冊	知る一冊	知る一冊	知る一冊	知る一冊
数学	使う一冊	使う一冊	使う一冊	使う一冊	使う一冊	使う一冊	使う一冊	使う一冊	使う一冊	使う一冊	使う一冊	使う一冊
理科	観る一冊	観る一冊	観る一冊	観る一冊	観る一冊	観る一冊	観る一冊	観る一冊	観る一冊	観る一冊	観る一冊	観る一冊
音楽	聴く一冊	聴く一冊	聴く一冊	聴く一冊	聴く一冊	聴く一冊	聴く一冊	聴く一冊	聴く一冊	聴く一冊	聴く一冊	聴く一冊
美術	作る一冊	作る一冊	作る一冊	作る一冊	作る一冊	作る一冊	作る一冊	作る一冊	作る一冊	作る一冊	作る一冊	作る一冊
体育	鍛える一冊	鍛える一冊	鍛える一冊	鍛える一冊	鍛える一冊	鍛える一冊	鍛える一冊	鍛える一冊	鍛える一冊	鍛える一冊	鍛える一冊	鍛える一冊
保健	守る一冊	守る一冊	守る一冊	守る一冊	守る一冊	守る一冊	守る一冊	守る一冊	守る一冊	守る一冊	守る一冊	守る一冊
技術	覚える一冊	覚える一冊	覚える一冊	覚える一冊	覚える一冊	覚える一冊	覚える一冊	覚える一冊	覚える一冊	覚える一冊	覚える一冊	覚える一冊
家庭	愛する一冊	愛する一冊	愛する一冊	愛する一冊	愛する一冊	愛する一冊	愛する一冊	愛する一冊	愛する一冊	愛する一冊	愛する一冊	愛する一冊
外国語	通じる一冊	通じる一冊	通じる一冊	通じる一冊	通じる一冊	通じる一冊	通じる一冊	通じる一冊	通じる一冊	通じる一冊	通じる一冊	通じる一冊
学級活動	感じる一冊	感じる一冊	感じる一冊	感じる一冊	感じる一冊	感じる一冊	感じる一冊	感じる一冊	感じる一冊	感じる一冊	感じる一冊	感じる一冊

夢を持ち、共に学ぶ心豊かな生徒（令和3年度）

・誠実で思いやりのある生徒

・目標に向かって学習する生徒

・健康で忍耐力のある生徒

学校行事	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
教育目標	知識・入学式 加給検査、標準学力検査 身体測定、PTA総会	教育相談 前期生徒総会 進路訓練	中体連・壮行式 体育大会	参観日 運動部防犯教室 授業式 授業式、二重鑑賞	自由参観日 3年修学旅行 進路訓練 中体連新人大会・壮行式	合唱コンクール 進路訓練 芸術鑑賞教室	2年修学旅行 教育相談	2年修学相談 参観日 3年三重鑑賞 授業式	後期生徒総会 入学説明会 修了式	卒業式 後期生徒総会	新入生説明会 職業講話	卒業式 入学説明会 修了式	
道徳	1 言葉おしめ B(7)礼儀 2 たんぽぽ作業者 C(13)勤労 3-1 いじめから目をそむけたい 3-2 命の尊厳 B(6)思いやり、感謝 3-1 平等の心 C(11)公正、社会正義	3-2 ある日の午後から 3-3 いじめから目をそむけたい 4 理系の音 B(6)思いやり、感謝	5 希望の丘 6 勇気 7 ぼくにもこんな「よいとこ」がある A(3)向上心、自信の伸長 8 最期の心を伝えたい 9 命の尊厳と文化の尊厳 10 希望の丘	9 花火と打ち上げ花火 10 希望の丘 11 希望の丘 12-1 希望の丘 12-2 希望の丘 12-3 希望の丘	1 希望の丘 2 希望の丘 3 希望の丘 4 希望の丘 5 希望の丘 6 希望の丘 7 希望の丘 8 希望の丘 9 希望の丘 10 希望の丘 11 希望の丘 12-1 希望の丘 12-2 希望の丘 12-3 希望の丘	1 希望の丘 2 希望の丘 3 希望の丘 4 希望の丘 5 希望の丘 6 希望の丘 7 希望の丘 8 希望の丘 9 希望の丘 10 希望の丘 11 希望の丘 12-1 希望の丘 12-2 希望の丘 12-3 希望の丘	1 希望の丘 2 希望の丘 3 希望の丘 4 希望の丘 5 希望の丘 6 希望の丘 7 希望の丘 8 希望の丘 9 希望の丘 10 希望の丘 11 希望の丘 12-1 希望の丘 12-2 希望の丘 12-3 希望の丘	1 希望の丘 2 希望の丘 3 希望の丘 4 希望の丘 5 希望の丘 6 希望の丘 7 希望の丘 8 希望の丘 9 希望の丘 10 希望の丘 11 希望の丘 12-1 希望の丘 12-2 希望の丘 12-3 希望の丘	1 希望の丘 2 希望の丘 3 希望の丘 4 希望の丘 5 希望の丘 6 希望の丘 7 希望の丘 8 希望の丘 9 希望の丘 10 希望の丘 11 希望の丘 12-1 希望の丘 12-2 希望の丘 12-3 希望の丘	1 希望の丘 2 希望の丘 3 希望の丘 4 希望の丘 5 希望の丘 6 希望の丘 7 希望の丘 8 希望の丘 9 希望の丘 10 希望の丘 11 希望の丘 12-1 希望の丘 12-2 希望の丘 12-3 希望の丘	1 希望の丘 2 希望の丘 3 希望の丘 4 希望の丘 5 希望の丘 6 希望の丘 7 希望の丘 8 希望の丘 9 希望の丘 10 希望の丘 11 希望の丘 12-1 希望の丘 12-2 希望の丘 12-3 希望の丘	1 希望の丘 2 希望の丘 3 希望の丘 4 希望の丘 5 希望の丘 6 希望の丘 7 希望の丘 8 希望の丘 9 希望の丘 10 希望の丘 11 希望の丘 12-1 希望の丘 12-2 希望の丘 12-3 希望の丘	
国語	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩	読む一詩 言葉の学習 読む一詩
書写	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	別紙に文字を書くこと (身の回りの文字の効果と工夫)	
社会	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	問題と現代日本の歩み	
数学	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	式の展開と因数分解	
理科	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	力のつり合い 水中の物体にはたらく力 いろいろな向きへの力の合力	
音楽	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	【歌唱】花 【歌唱】花の街 【歌唱】花の街	
美術	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	形を研ぎ澄ませて	
体育	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】	集団行動・体づくり運動 体力テスト 【運動】 【運動】
保健	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	【保健】 【保健】 【保健】	
技術	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	【技術】 【技術】 【技術】	
家庭	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	【家庭】 【家庭】 【家庭】	
外国語	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	【外国語】 【外国語】 【外国語】	
学級活動	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	【学級活動】 【学級活動】 【学級活動】	

令和3年度

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業報告集

令和4年3月

編集・発行 青森県道徳教育推進協議会

